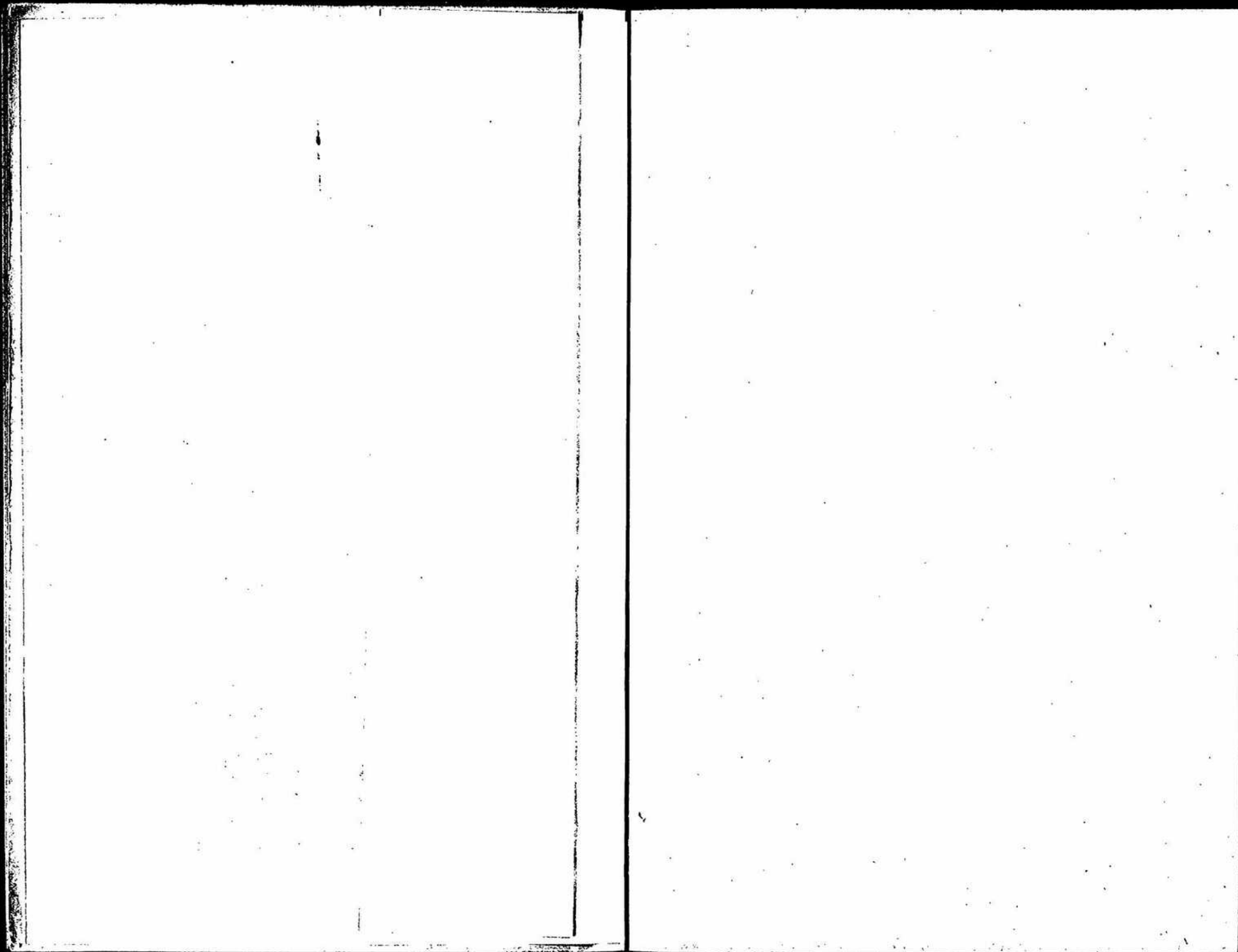


1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

陸軍經理ノ概要

三角
料第
七
号
號

国立公文書館	
分類	③
配架番号	3 A
	14
	20-1



出張中傷疾疾病ノ場合ノ取扱
准士官以上及軍属

公務ニ基因スル傷疾ノ場合

- 一、官費トス
- 二、最寄衛戍病院ニテ治療ヲ受ケク
- 三、附近ニ衛戍病院ナキトキハ、病況上特ニ必要アレハ患者護送者等ヨリ地方病院又ハ地方医師ニ治療ヲ委託スルコトヲ得此場合治療ニ関スル費用ハ東一病院ノ支辨トス
- 四、患者ノ輸送費ハ事業費支辨トス
- 五、旅費ノ支給ヲ停止ス
- 六、重症ノ場合ハ此方法ヲ可トス
- 七、公務ニ基因スルモ自費支辨ノ場合及公務ニ基因セサル傷疾ノ場合ノ總テ自辨トス
- 八、最寄ノ衛戍病院ニテ治療ヲ受ケ得ルコトアリ
- 九、旅費ヲ支給ス軍医若クハ地方医師ノ証明ヲ要ス
- 十、輕症ノ場合ハ此方法ヲ可トセン

測 夫

- 一、公務ニ基因スル傷疾ノ場合前記ト同一ノ取扱ヲ受クルコトヲ得
- 二、右ノ外業務上負傷疾疾ニ罹リタル場合傭人扶助令ノ適用ヲ受クルコトヲ得ヘク然ルトキハ療治料官費給料ハ休業扶助料(其他各種ノ扶助料アリトシテ大口%支給シ旅費ハ支給ヲ停止セラル重症ニシテ長引ク場合等ハ扶助令ニヨルヲ可トス
- 三、輕症又ハ公務ニ基因セサル傷疾等ノ場合ハ給料全額及測夫日当ヲ支給シ自費ニテ治療セシムルモ可ナリ

陸軍經理ノ概要目次

第一編 一般經理	15
第一章 陸軍經理ノ要旨	10
第一節 陸軍經理ノ意義	10
第二節 陸軍經理業務ノ要旨	2
第三節 陸軍經理ノ區分	3
第二章 會計	4
第一節 會計ノ意義	4
第二節 會計ノ種類	4
第三節 歲入歳出ノ計	6
第一節 歳計ノ意義	6
第二節 歳入歳出	6
第三章 會計期間	6
第一節 會計年度	6
第二節 整理期間	7
第五章 豫算	7

めくられず

第一節	豫算，意義	7
第二節	豫算，效力	8
第三節	豫算，編組	9
第四節	豫算，議定	10
第五節	豫算，流用	11
第六節	繼續費及定額繰越	11
第七節	豫備費	12
第六章	支出	13
第一節	支出，意義	13
第二節	豫算，配付	14
第三節	定額，使用	15
第四節	支出機關	15
第五節	支出，方法	18
第六節	小切手	20
第七章	收入	22
第一節	收入機關	22
第二節	收入事務	23
第八章	決算	24

第一節	決算，意義	24
第二節	決算，種別	24
第九章	委任經理卜實費經理	24
第一節	經理法	25
第二節	委任經理	25
第三節	實費經理	25
第十章	物品會計	26
第一節	物品會計，概念	26
第二節	會計年度	27
第三節	物品會計機關	27
第四節	出納	27
第五節	廢品處分	28
第六節	保管轉換	29
第七節	出納證明	29
第十一章	物件調達	30
第一節	物件調達，概念	30
第二節	契約調達	31
第三節	契約擔任官	31

第四節 検査受領 31
 第五節 代金支拂 32
 第三章 會計監督 32

第二編 金銭經理

第一章 給 兵 33
 第一節 金銭給與 33
 第二節 軍人俸給 33
 第三節 軍属俸給 33
 第四節 旅 費 35
 第五節 雇員傭人扶助 38
 第六節 死亡賜金及埋葬料 38
 第二章 分仕官勤務 56
 第一節 任 命 57
 第二節 資金、請求 57
 第三節 保 管 58
 第四節 支 拂 59
 第五節 決算証明 60

第六節 責 任 62

第三編 物品經理

第一章 物品、種類 65
 第二章 庫中備品 65
 第三章 消耗品 67
 第四章 團 書 67
 第五章 作業用器具機械及材料 67
 第六章 検査及証明 69

第四編 戦時經理

第一章 給 兵 71
 第一節 俸 給 71
 第二節 旅 費 72
 第三節 被 服 72
 第四節 糧 秣 73
 第二章 經理計算 73
 第一節 支出及支拂機關 73

第二節 現金ノ保管出納 74

第三節 決算証明 74

附表第一 陸軍省所管歳入歳出經常部及歳出臨時部金額表(元年度)

附表第二 官衙學校備附器具標準表

陸軍經理ノ概要

第一編 一般經理

第一章 陸軍經理ノ要旨

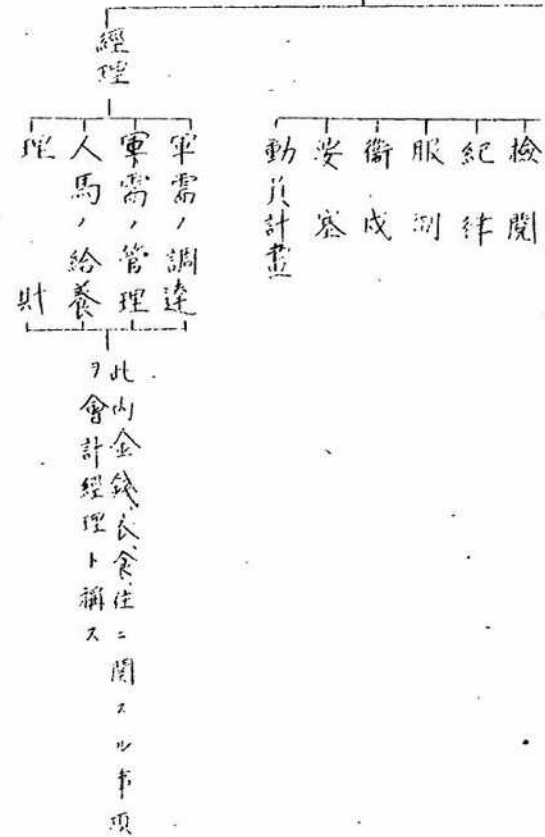
第一節 陸軍經理ノ意義

陸軍ニ於ケル諸般ノ業務ハ之ヲ大別シテ統帥及軍政ノ二トナシ軍政ハ更ニ編制及經理ノ二種ニ分ツ今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

統帥 天皇親ラ陸軍ニ對シ號令セテルルノ意義ニシテ帝國憲法上 天皇ノ大權ニ屬ス



軍政



即ち陸軍經理ハ軍政ノ一部ニシテ陸軍ノ軍需調達管理及人馬ノ給養並ニ
 理財ヲ謂ヒ其内金銭衣食住ニ関スル事項ヲ會計經理ト稱ス通常陸軍經理
 勤務ト稱スルハ會計經理ヲ指稱ス

第二節 陸軍經理勤務ノ要旨

會計經理ハ陸軍團體ニ於ケル金銭衣食住ニ係ル要求ヲ合法的ニ且ツ經濟
 的ニ満足セシムルヲ以テ其ノ本旨トシ共施行ニ當リテハ國法ノ定ムル所

ニ準據シ其成果ニ對シテハ國法上ノ責任ヲ負フヘキモノトス

第三節 陸軍經理ノ區分

1. 平時經理
 2. 戰時經理
 3. 金錢經理
 4. 物件經理
 5. 委任經理
 6. 實費經理
- 一 平時經理ハ平時行ノ經理ヲ謂フ
- 二 戰時經理ハ戰時又ハ事變ニ際シ動員又ハ臨時編成セラルル部隊等ニ
 於テ行ノ經理ヲ謂フ其施行ノ形式ニ於テハ平時經理ト異ナルニ其内容
 ハ異ル所ナシ唯戰時ハ對敵行動ノ關係上常ニ大局ヨリ打算ニ戰費ヲ以
 テ第一義トシ人馬ノ平時經理ト異リ法規經濟上ノ事項ハ己ヲ碍ス之ヲ
 犧牲ニ供セサルハカヲサハコトアリ
- 三 金錢經理ハ豫算收入支出現金ノ保管出納金錢給與決算整理等主トシテ
 金錢ニ係ル經理ヲ謂フ
- 四 物件經理ハ軍需ノ調達保管出納諸給與ハ金錢給與ヲ除ク一決算整理等
 主トシテ物件ニ係ル經理ヲ謂フ
- 五 委任經理ハ金錢又ハ物品ヲ以テ定メラル給與ノ定額ヲ部隊ニ交付シ其
 經理ヲ給與實施ノ責任者タル該部隊長ニ委任スルヲ謂フ

六、實費經理トハ委任經理ニ對スル語ニシテ實際ノ費途ニ依リ經理ヲ行ノ
 ヲ謂ヒ豫算ノ範圍内ニ於テ實費ニ依リ支辨シ剩餘ハ國庫ニ歸屬セシム
 ルト共ニ不足ハ増額ヲ受ケ得ルモノナリ
 實費經理ハ經理方法ノ本則ヲ守スモノナリ故ニ軍隊其他ニ於テ委任經
 理ヲ許サレアルモノ外ハ總ニ此方法ニ依ルモノトス
 (註) 当部ノ經理ハ總テ實費經理ナリ

第二章 會計

第一節 會計ノ意義

會計ニハ實質的意義ト形式的意義トノ二アリ
 實質的意義ニ於ケル會計ハ財政ニ關スル執行ノ全體ヲ意味スル廣義ノ會
 計ト、單ニ財政ニ關スル處理手續ヲ意味スル狹義ノ會計トノ二種アリ
 形式的意義ニ於ケル會計ハ會計ノ目的タル財産若ハ其主體ヲ指スニ用
 ルモノニシテ一般會計及特別會計ナル字句ヲ用フル場合ニ於ケル意義足
 レナリ

第二節 會計ノ種類

會計ハ其取扱フ目的物ノ異ルニ從ヒ金錢會計、物品會計、國有財産會計ノ三
 種トナリ適用セラルル法規ノ廣狹或ハ財團ヲ異ニスルニ從ヒ一般會計、特

別會計ノ二種ニ分ソコトヲ得

第一 金錢會計

金錢會計ハ國庫金即チ國有ノ金錢ハ固ヨリ國ニ於テ保管スル歲入歲
 出外現金ニ關スル整理手續ナリ

第二 物品會計

物品會計ハ各廳ニ於ケル事務用物品又ハ事業用物品等國家ニ屬スル
 一切ノ動産ニ對スル整理手續ナリ

第三 國有財産會計

國有財産會計ハ國有ノ不動産ヲ始メトシ勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動
 産及權利ニ關スル整理手續ナリ

(註) 当部管轄ニ屬スル國有財産ハ測量標及同敷地トス

第四 一般會計

一般會計ハ國家ノ財産並ニ其歲入歲出中特別會計ニ屬スルモノヲ除
 キタルモノナリ

第五 特別會計

特別會計ハ國家ノ財産並ニ歲入歲出中特別ノ須要ニ因リ一般ノ法規
 ニ準據シ難キモノヲ一般會計ヨリ獨立シテ特別ノ會計ヲ營ムモノナリ

第三章 歲計

第一節 歲計ノ意義

歲計ハ一會計年度ニ於ケル歲入歲出ノ全般ニ互ル關係的計算ヲ謂フ即チ歲入歲出ノ關係ヲ數字の方面ヨリ觀タル用語ナリ

第二節 歲入歲出

歲出ハ國家ノ具々各般ノ需用ヲ充タスル爲メ一會計年度内ニ支出スル一切ノ經費ナリ
歲入ハ歲出ヲ支辨スル爲メ一會計年度毎ニ收納セラルル一切ノ收入ナリ

第四章 會計期間

國家政務ニ要スル歲入歲出ハ國家ノ存立スル限リ無限ノ期間ニ互リテ繼續スルシテ此無限ノ期間ヲ通シテ收支ノ計算ヲ整理スルハ複雜且ツ出納計算ノ規律判明ヲ缺クニ至ルヲ以テ一定ノ期間ヲ定メテ此計算ヲ區分整理スルノ要ナリ

第一節 會計年度

會計年度ハ一名豫算年度トモ稱シ豫算事務執行期間ニシテ毎年四月一日ヨリ始メリ翌年三月三十一日ニ終ル一箇年間ナリ唯特種ノ場合ニハ數箇年

ニ互ルコトアリ臨時軍事費ノ如キ是レナリ

(註)日露戰爭西比利亞事變ノ臨時軍事費ノ會計年度ハ數ヶ年ニ互レルモ

今回ノ滿洲事件費ハ一箇年トス

第二節 整理期間

整理期間ハ一會計年度經過後當該年度内ニ起リタル一切ノ出納事務ヲ整理スル爲メニ設ケタル一定ノ期間即チ會計年度ニ對スル猶豫期間ナリ現行會計法ハ此整理期間ヲ四箇月トシ(翌年度七月三十一日迄)トシ會計規則ハ更ニ此範圍内ニテ種々ノ格別期間ヲ設ケテリ

一 歲入金收納期限 翌年度四月末日限

二 小切手振出期限 同 右

三 日本銀行出納期限 歲入金受入ハ翌年度四月末日限

四 主計簿締切期限 翌年度七月三十一日限

第五章 豫算

第一節 豫算ノ意義

豫算ハ一國ノ歲入歲出ノ見積ニシテ議會ノ協賛ヲ經テ裁可ヒラレシヒナリ而シテ其本質ハ議會力政府ノ歲入歲出ニ對シテ同意ヲ與フル形式タルト共ニ政治的ニハ國家力議會ヲ通シテ政府ノ歲入歲出ヲ監督スルノ資

料ナリ

抑ミ私經濟ニ於テモ收入支出ノ豫定ヲ爲シ之ニ依リテ日常ノ出納ヲ調整スルノ必要ナルハ言フ俟タズ況ンヤ國家ニ於テハ其歲入歲出ハ多額ニ上リ且長期ノ計畫ヲ要スルモノ多ク殊ニ政務ハ多岐ナルニ伴ヒ財政モ亦錯綜シ且緩急ノ度ノ異ニスルモノアルヲ以テ這ニ一定ノ豫算ヲ以テ歲入歲出ヲ調節シテ政務ヲ一定ノ計畫ノ下ニ適切ニ遂行シ浪費ヲ防クノ要アリ加之國家歲入ノ大部ハ國民ヨリ之ヲ徵收シ以テ歲出ニ充ツルモノナルカ故ニ國民ニ對シテ其收支ヲ明示スルハ政治上ノ義務ナリトス

第二節 豫算ノ效力

豫算ノ効力ニハ二種アリ一ハ豫算ニ依リ歲入ヲ制限セントスルモノニシテ他ハ歲出ヲ抑制セントスルモノナリ我國ノ豫算ハ後者ニ屬シ歲入ニ關シテハ唯其財源ヲ示スニ止マル反之歲出豫算ノ効力ハ重要ニシテ之ヲ遵守スルノ義務アリ即チ國家經費ノ支出ハ歲出豫算額ノ範圍内ニ制限セラルルモノトス

其原則左ノ如シ

- 一 歲出豫算ハ特定年度ノ經費ニ充ツヘキモノニシテ他ノ年度ノ經費ニ充ツルコトヲ得ス
- 二 豫算ニ定メタル目的ノ外ニ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

トヲ得ス

三 豫算超過若ハ豫算外ノ支出ヲ爲スコトヲ得ス若シ止ハノ得ザルトシ

ハ豫備費ヨリ支辨シ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

歲出豫算ハ以上ノ拘束力ヲ有スルモ他面ニ於テ豫算額ハ全部之ヲ支出スヘキ義務アルニアラサルナリ

第三節 豫算ノ編組

豫算ハ歲入歲出共ニ經常臨時ノ二部ニ大別シ次ニ各省所管ニ分チ之ヲ豫算目(款項目節)ニ區分ス

一 經常部及臨時部

國家ノ歲入歲出中ニハ永續的ノモノト一時的一時的ノモノトイリ之ヲ區分スルトキハ之ニ依リテ財政ノ大體ヲ通視シ得ハク豫算ノ編成及協算上大ナル便益アリ故ニ永續的ノモノヲ經常部トシ一時的一時的ノモノヲ臨時部トナスモノトス而シテ原則トシテ經常歲出ハ經常歲入ヲ以テ之ニ充テ臨時歲出ハ臨時歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘキモノナリトモ實際財政上ノ都合ニ依リ必スシモ然ルヲ得ス

二 所管區分

歲入ハ總テ大藏省ノ所管ニ屬シ歲出ハ皇室費ノ外各省所管別トナス

三 豫算科目

科目トハ款項目節ノ總稱ニシテ總豫算ハ款項ニ區分ス此區分ハ出入ノ性質成出ノ目的ヲ明カニシ且ツ議會ニ於テ議定スルノ標準トナシテハ十リ而シテ款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定マルモノトス
目ハ項ノ成立ヲ明カニシタルモノニシテ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ節ハ目ノ細目ニシテ各省大臣ニ於テ適宜ニ之ヲ定ム
如上豫算科目ハ豫算ノ目的ヲ明カニスルモノニシテ豫算ヲ使用スルニハ其目的ニ從フハク或ル科目ニ餘裕アルモ他ノ目的ニ使用スルヲ得ス
〔註〕陸軍省所管歲入歲出科目表附解疏ハ毎年度豫算ニ基キ陸軍省ニテ之ヲ調製シ各部隊ニ配付セラル豫算使用上ニ就テハ總テ此科目解疏ニヨル參考ノ爲メ各部隊係予算科目ヲ按梓スレハ附表第一ノ如シ

第四節 豫算ノ議定

第一款 豫算ノ提出及審議
總豫算ハ政府ヨリ前年度議會ノ始ニ於テ先ツ衆議院ニ提出シ審議ノ後貴族院ニ廻付シ同院ノ審議ニ附ス兩院共先ツ豫算委員ヲ設ケテ之ヲ精査ヒシメタル後全院ノ討議ニ附スルモノニシテ原則トシテ豫算ノ修正ヲナスコトヲ得ルモ金額ノ増加ヲ許ササルノミナラス特種ノ經費ニ就テハ政府ノ同意ナクシテ之ヲ廢除削減スルコトヲ得ル
第二款 豫算ノ成立及不成立

豫算案カ兩院ノ議決ヲ經テ通過シタルトキハ内閣ヨリ上奏ニ裁可ヲ經タル後茲ニ初メテ成立シ年度開始前各國務大臣ノ副署ヲ以テ官報ニヨリ公布ス

議會ニ於テ會期中豫算ヲ議了セス或ハ兩院ノ決議一致セス或ハ衆議院ノ解散等ニコリ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ憲法ノ定ムル所ニ從ヒ前年度豫算ヲ施行ス而シテ之ヲ實施ニ當リテハ適法ノ範圍内ニ於テ取捨裁量ヲ加ヘ所謂實行豫算ヲ編成シテ其運用ヲ圖ルモノトス

第五節 豫算ノ流用

豫算ノ流用ハ或ル豫算科目ノ餘額金額ヲ減シ之ヲ以テ他ノ科目ノ不足ヲ補フヲ謂フ而シテ豫算各項ノ金額ヲ彼此流用スルハ會計法ノ禁スル所ナリ同一項内ニ於ケル目以下ノ流用ハ之ヲ禁止スルコトナシ足レ目以下ハ所謂行政科目ニシテ各省大臣行政上ノ必要ニ依リ彼此流用シテ過不足緩急ヲ補フハ寧ロ適切有利トシ使用法ナレハナリ然レトモ豫算ノ本旨ヲ没却スルル如キコトナカラシムル爲メ目以下ニ於テ之ヲ流用増減ヲ制限シタルモノアリ

第六節 繼續費及定額採越

繼續費ハ數年ヲ期スルニアラサレハ竣工スルコト能ハサル工事製造其他ノ事業ニ要スル經費ニシテコレハ豫メ年限ヲ定メ數年度ニ及ル所要額ノ

継続費豫算トシテ帝國議會ノ協賛ヲ經ルモノナリ

〔註〕當部測量費予算ハ以前継続費クリシモ現在ニ於テハ年度ノ予算トシテ要求スルモノナリ

定額繰越トハ現年度ニ於テ支出ヲ終ラザリシ經費ヲ次年度ニ於テ支出スル為メ繰越ヲ為スヲ謂フ不可抗力ノ原因ニ基テ繰越(一)年度内ニ終ルハキ工事製造又ハ物品ノ買入ト若ハ運搬ニシテ避クハカラサル事故ニ依リ竣工又ハ納入若ハ運搬ノ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラザリシモノ如シ

第七節 豫備費

豫算ノ施行ニ當リ避クハカラサル事由ニ依リ豫算ニ不足ノ生シ又ハ豫算ノ外ニ必要ナル費用ヲ生スルコトアリ之カ為メ豫算中ニ豫備費ヲ設ク豫備費ハ之ヲ第一豫備金及第二豫備金ノ二種ニ分テ第一豫備金ハ避クハカラサル豫算ノ不足(即チ豫算超過)ヲ補フモノニシテ第二豫備金ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス又第一豫備金ヲ以テ補充シ得ハキ費途ハ毎年初令ヲ以テ定メラルル第一豫備金ヲ以テ補充シ得ハキ費途(單ニ補充費途トモ稱ス)ノ属スル豫算科目ヲ補充科目ト稱ス〔註〕當部地下地函製造費ハ補充費途ナリ
豫備費ハ各省所管ニ分割スルコトナク大藏大臣之ヲ管理ス若シ豫備金支

出ノ必要ヲ生シタルトキハ各省大臣ハ大藏大臣ニ要求シ所定ノ年額ヲ經テ之ヲ各省所管ノ豫算ニ移シ替ヘタル上使用スルモノニシテ此場合ニハ第一豫備金支出ニ係ルモノハ年度經過後第二豫備金支出ニ係ルモノハ次ノ帝會ニ於テ帝國議會ノ承諾ヲ求メサルヘカラス〔註〕此項ノ豫備費豫算超過又ハ豫算外ノ支出ヲ要スルトキハ先ツ豫算中ニ設ケタル豫備費ニ係ルヘキモ豫備費ニハ自ラ限度アリテ尚ホ不足スルカ如キコトナシトセス此場合ニハ追加豫算ヲ提出スルカ或ハ憲法第七十條ノ規定ニ依リ財政上ハ緊急處分ニ依ルノ外ナキモ此等ハ非常ノ處置ニ属スルヲ以テ從來政府ハ責任ヲ以テ國庫剩餘金(將來歲計剩餘トナルハキ)ヲ豫想セテ此國庫剩餘金ニヨリ支出ヲ行ヒ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルコトハ慣例トナレリ

第六章 支出

第一節 支出ノ意義

支出ハ廣義ニ用ノルトキハ豫算使用ヲ意味スルモ會計法上ニ於テハ支出ハ狹義ニ用ヒラレテ支出官カ國庫金支出ノ為メ日本銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ振出スコトヲ謂フ
〔註〕支拂トハ小切手支拂人タル日本銀行若ハ出納官吏カ債主ノ國庫金ヲ

支拂フヲ謂フ

第二節 豫算ノ配付

各省大臣ハ行政長官トシテ其省所管ニ屬スル豫算ノ使用權者ニシテ法令ニ準據シ豫算ノ目的ニ反セス且ツ經濟的ニ之ヲ使用セザルヘカラス然レトモ各省大臣ハ自ラ其ノ所管定額ノ全部ヲ支出スルコト能ハサルヲ以テ之カ一部又ハ全部(護餉)ヲ他ノ官吏ニ委任シテ支出セシムルコトヲ得之カ爲メ各省大臣ハ支出官毎ニ委任スヘク定額ヲ定メ支拂豫算書ヲ作リ之ヲ令達ス

元來支拂豫算書ハ各支出官毎ニ委任セル豫算使用權ノ範圍ヲ示スモノニシテ支出權ト定額使用權トヲ包含スヘキモノナルモ陸軍ニアリテ之ヲ兩分シ支出權ハ支拂豫算書ヲ以テ經理部長等ニ委任シ定額使用權ハ明細支拂豫算書ヲ以テ特種經費(營業費ノ如キ)ハ經理部長ニ其ノ他ハ陸地測量部長等ニ委任令達スルヲ本則トス

但シ其費目ニシテ法令ニ依リ其ノ定額一定ノモノ又ハ他動的ニ支出ヲ要スルモノ等自由裁量ノ餘地ナキモノハ之ヲ經理部管理豫算トシテ令達ス

(註)當部關係予算中 俸給赴任旅費諸支拂金等ハ經理部管理予算ニシテ其他ハ總務當部長ニ令達セラル

第三節 定額ノ使用

豫算使用ニ關スル大臣ノ責任ハ前述ノ如ク從テ之カ委任ヲ受ケ定額使用權者タル陸地測量部長等亦同ニノ責任ヲ帶フルモノニシテ令達セラレタル豫算ハ法令ニ準據シ豫算ノ目的ニ反セス中央部ノ指示ニ從ヒ適當ニ運用シテ使用ノ時機場所及方法ヲ誤ラス業務ノ遂行ニ必要ナル經費ヲ辨シ最小ノ經費ヲ以テ最大ノ效果ヲ收メザルヘカラス殊ニ近時帝國財政ノ現況ニ鑑ミ歐米各國ノ事例ニ徵シ豫算ノ使用ヲ一層適切トシムル爲メ事前監督ノ必要論議セラレ下リ

以上ノ如ク陸地測量部長等ハ豫算ノ令達ヲ受ケ定額使用權ヲ有シ豫算使用上ノ責任頗ル重大ナルヲ以テ其ノ豫算ノ配當ヲ受ケタル各種モ亦之ヲ信用上部長ニ付シ其責ニ任セザルヘカラス

第四節 支出機關

支出機關ニハ支出ヲ命令スル機關ト現金ノ保管出納ヲ掌ル機關トアリ也前者即チ支出官ニ統テハ既ニ第二節ニ於テ述フル所アリタルヲ以テ以下專ラ後者タル現金出納機關ニ統テ述ハントス

其一 日本銀行

日本銀行ハ國庫金出納ノ事務ニ任シ其受入トタル國庫金ハ政府ノ預金トシテ處理スルモノトス從テ之カ出納ハ必ス命令機關ノ命令又ハ要求ニ依

ヲサレハカリテ人即チ歳出ニ在リテハ支出官ノ振出セル小切手ニ依リ文字
ヲ爲ササルハカラム

以上ノ外日本銀行ハ會計法上左ノ事務ヲ掌ル

1. 一定ノ資金ノ交付ヲ受ケ國債ノ元利支拂ニ任ス
2. 所要資金ノ交付ヲ受ケ隔地者ニ支拂ヲナス
3. 政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱ニ任ス

其二 出納官吏

本項ニ於テハ國庫金ノ出納機關トシテ、出納官吏ヲ研究スルヲ止トスル
モ併セテ一般出納官吏ノ性質其他ニ就テ述ヘントス

1. 出納官吏ノ意義

出納官吏トハ政府ニ屬スル金錢物品若ハ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ
金錢物品ノ保管出納ヲ掌ル官吏ノ總稱ナリ

2. 出納官吏ノ種類

金錢ノ出納官吏ハ收入官吏資金前渡官吏歳入歳出外現金出納官吏及
繰替拂出納官吏アルモ當部ニアリテハ同一官吏(所屬主計)之ニ任
シ又物品ノ出納官吏ヲ物品會計官吏ト謂フ

(イ) 收入官吏

部隊ニ於テ直接ニ歳入金ノ收納ヲ要スル場合ニ之カ收納ニ任セ

シム

(註) 前渡金利息ノ取扱ハ原則トシテハ收入官吏ノ職務トス

(ロ) 資金前渡官吏

勅令ヲ以テ定メタル經費ヲ支拂フ爲メ其定ムル所ニヨリ資金ノ
交付ヲ受ケ必要ニ應テ直接債主ニ支拂フトスモノトス

(註) 當部ニテ資金前渡ヲ受クル費目ノ主トシテハ、ハ測量費雜給
及雜費並廳費及修繕費ニシテ當部ニ於ケル常時資金前渡官
吏ハ主計正トス

(ハ) 歳入歳出外現金出納官吏

政府ノ所有ニアラザルモ政府ニ於テ保管ノ義務アル公金等ノ保
管出納ニ任スルモノトス

(註) 保管ノ義務アル公金トハ保證金等ノ如シモ當部ニ於ケル委託經費
物品會計官吏

(ニ) 物品會計官吏

物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ルモノトス

3. 出納官吏ノ責任

出納官吏ハ其ノ保管出納ニ係ル現金又ハ物品ニ就テ一切ノ責任ヲ負
ヒ其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトハ善後ナル管
理者ノ注意ヲ怠ラザリシコトヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決

ヲ受クルニアツサレハ其ノ七失毀損ニ就テ辨償ノ責ヲ負ルルヲ符ス
(註) 1. 出納官吏ハ部長(又ハ其代理者)若ハ物品出納命令官ノ命令
アルニアラサレハ出納スルヲ得ス

2. 一切ノ責任トハ一般官吏ノ責任ノ外賠償責任ヲ念ハモノニシ
テ免責事由ノ存在セサル限り原因ノ如何ヲ問ハズ一切出納官
吏ニ於テ責ヲ負フハキモノトス

出納官吏ハ右ノ如ク保管出納ニ関シ一切ノ責任ヲ負フモ其代理官介
任官及出納員ノ所爲ニ関シテハ其責ヲ負ハサルモノトス
代理官トハ出納官吏事故アル場合ニ其事務ノ全部ヲ代理スル者介任
官トハ出納官吏ノ事務ノ一部ヲ分掌スル者出納員トハ官吏ノ附屬十
キ部隊分遣所出張所ニ於テ經費ノ支拂ヲ要スルトキ所屬係員及兵卒
等ニ現金ノ保管出納ヲ分掌セシムル者ヲ謂フ

第五節 支出ノ方法

支出ハ支出官ニ於テ小切手ヲ振出し之ヲ債主ニ交付スルヲ原則トスルモ
左ノ例外アリ

(三) 主任官吏ニ對シ資金ヲ交付シ現金ノ支拂ヲナサシム
主任ノ官吏ニ資金ヲ交付シ現金ノ支拂ヲナサシムルハ左ノ二ツノ場
合トス

1. 資金前渡ヲナス場合(第四節其二(2))

當該官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムルタメ資金ヲ交付スルモノニ
シテ其ノ經費及程度ハ會計法 及會計規則ニ之ヲ定
メラレ陸軍ノ軍隊學校及病院ニ屬スル經費ハ資金前渡ヲナシ得ル
モ官衙タル當部ニ於テハ出張地ニ於テ要スル經費ニ限り資金前渡
ヲ受クルコトヲ得

2. 繰替補填金ノ場合

當該官吏ノ保管ニ係ル現金ヲ繰替使用シタル場合ニ之ヲ補填スル
為メ資金ヲ同官吏ニ交付スルモノニシテ我カ陸軍ニ於テ繰替補
ナシ得ル經費ハ林費及埋葬料トス

(三)

日本銀行ニ資金ヲ交付シ現金ノ支拂ヲナサシム
隔地ニアル債主ニ支拂ヲナス場合等ニシテ日本銀行ヲシテ支出官所
在地ノ支拂店以外ノ場所ニ於テ現金支拂ヲ爲シメントスルトキ必
要ナル資金ヲ日本銀行ニ交付ス

而シテ政府ノ債主ニ對スル支拂ハ政府ノ債務確定ニ依リ即チ物件ノ納付
工事ノ完成等ノ後ニ之ヲ行フ本則トス(精算拂)然レトモ左ノ例外アリ
(不)前金拂

確定セル金額ヲ債權確定ノ時期以前ニ支拂ヲナスヲ謂フ

註 前金拂ヲナシ得ルハ兵谷彈藥ノ代價外國ヨリ直接購入スル機械
又ハ圖書ノ代價官公署ニ對シ支拂フハキ經費(例ハ官報代)
等ニシテ其他ハ總テ精算拂フ原則トス

⑤ 概算拂
迨テ政府ノ債權者タルヘク豫定セラルル者ニ對シ概算ヲ以テセル未
確定金額ヲ支拂フヲ謂フ

⑥ 繰替拂
或ル一定ノ目的ヲ以テ交付ヲ受ケタル前渡ノ資金ヲ一時他ノ經費ノ
支拂ニ繰替使用スルヲ謂フ

⑦ 出納官夫保管ニ係ル前渡ノ資金ヲ繰替使用シ得ルハ旅費及埋葬
費等ノ支拂ニ限ル

⑧ 渡切經費
事務費ノ一部又ハ全部ヲ主務ノ官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給スルヲ謂フ
陸軍ニ於テハ之ヲ行ハス

第六節 小切手
共一 小切手ノ意義
茲ニ謂フ小切手トハ支出官カ日本銀行ニ對シ政府ノ預金中ヨリ宛名人又

ハ所持人ニ一定ノ金額ヲ支拂ノハキトトテ單純ニ委託セル證券ニシテ共
性質全ク商法上ノ小切手ニ同シク總テ商法中小切手ニ關スル規定ノ適用
ヲ受クルモノトス然レトモ政府ノ振出ス小切手ハ財政上ノ必要ニ依リ商
法ノ規定以外ニ尚ホ幾多ノ要件アリ

共ニ 小切手ノ種類
小切手ノ種類ハ種々アルモ其主ナルモノ左ノ如シ
① 小切手ハ其種類ニ從テ川紙ノ一定セラレ各支出官(若ハ出納官吏)
ノ請求ニヨリ日本銀行(又ハ共支拂店)ヨリ交付ス

共三 小切手振出ノ效果
小切手振出ノ一般的效果左ノ如シ
① 債主ニ對スル效果
支出官小切手ヲ振出シ之ノ債主ニ交付スルトキハ債務清済ノ效力
ヲ生シ別ニ國ハ手形上ノ債務ヲ負擔スルモノトス

② 會計整理上ノ效果
小切手一度適法ニ振出ラレ登簿セララルトキハ該金額ハ國家ノ歲
計ヨリ除却セラレテ會計法上ノ支出關係ヲ終結セシム

③ 小切手ヲ紛失シタルトトハ除權ノ手續ヲ完了セザレバ再發行
スルヲ得ス

第七章 收入

收入トハ國家ノ歳入トナルハキ金額ヲ法令ノ定ムル所ニ依リ一私人ノハ其ノ他ヨリ徴収又ハ收納スルヲ謂ヒ之ヲ大別スレハ公法關係ヲ以テ徴収スルモノト私法關係ニ於テ收納スルモノトニ分ツトテ得租稅ノ如キハ前者ニ物品掛下代ノ如キハ後者ニ屬ス

第一節 收入機關

收入事務ニ任スル機關ト支出機關ノ如ク法令ノ機關ト收納機關トニ分ツトトテ得ハク前者ニ屬スルモノハ歳入徴収官ニシテ後者ニ屬スルモノハ日本銀行及收入官吏ナリ
國庫金ノ保管出納ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルヲ本旨トスルモ如何ナル場合ニモ此原則ヲ行フハ不便ナルヲ免レサルヲ以テ收納機關トシテ收入官吏ヲ設ケテ一部ノ業務ヲ執行セシム

其一 歳入徴収官

歳入徴収官ハ租稅其ノ他ノ歳入ヲ法令ノ定ムル所ニヨリ徴収スル機關ナリ陸軍ニ於ケル歳入徴収官ハ支出官ト同一人ニ委託シアリ

其二 日本銀行

日本銀行ハ收納機關トシテ國庫金ノ取扱ニ任シ歳入徴収官ノ納入ニ對シテ發行セル告知書ニ基キ之ヲ收納スルモノトス

其三 收入官吏

收入官吏ハ官廳ニ於テ直接ニ歳入金ヲ收納ヲ要スル場合ニ之ヲ收納ニ任セシムル機關ニシテ單ニ現金ヲ領收スル職責ヲ有スルニ止マリ調定事務ヲ行フコトナシ

第二節 收入事務

其一 徴収

一 調定

歳入ノ徴収ハ法律命令ノ規定ニ從フヘイヒノニシテ歳入徴収官歳入ヲ徴収セントスルトハ先ツ之ヲ調定ヲ必要トス調定ハ歳入カ法令ニ違フコトナリカ所屬年度及歳入科目ヲ誤ルコトナリトカヲ調査決定スル行為ナリトス

二 納入告知

歳入ノ調定ヲ了ヘタル時ニ歳入徴収官ハ納入ニ對シテ其納付スベキ金額期日場所ヲ明記シタル納入告知書ヲ發シ納入ノ告知ヲ為ササルハカラス

其二 收納

納入ノ告知ヲ受ケタル納入人ハ此告知ニ依リ日本銀行又ハ收入官吏ニ納入ス日本銀行又ハ收入官吏ハ其歳入金ヲ告知書ニ對照シテ受領シ納入

ニ領收證書ヲ交付シ領收済ノ旨ヲ歳入徴収官ニ報告スルモ、トス而シテ收入官吏ニ在リテハ其領收シタル現金ハ一定ノ期日ニ日本銀行ニ拂込ムヲ要ス

第八章 決算

第一節 決算ノ意義

決算トハ豫算ヲ施行シタル事績ニ對スル定期又ハ臨時ノ證明及報告等ヲ總稱スルモ、ニシテ會計ノ始末ヲ明カニシ以テ會計監督ニ資スルヲ目的トス又一面將來ニ於ケル豫算運用ニ資ス

第二節 決算ノ種別

決算ハ講學上證明決算ト行政決算ニ區分ス證明決算トハ收支ヲ實行スル機關ハ會計検査院ニ其實績ヲ證明スル爲メ行フモノニシテ即チ歳入徴収官、支出官及出納官吏ノ決算證明之ニ屬ス行政決算ハ主トシテ收支統轄ノ必要上豫算施行ノ實績ヲ收支實行機關ヨリ統轄機關ニ報告セシムルモノニシテ支出見込書(一級中社切)及決算報告書、如キ是レナリ右 外國ノ總決算アリ議會ニ於ケル會計監督ノ資ニ供セラルルモノナリ

第九章 委任經理ト實費經理

第一節 經理法

國家經費ノ經理方法ニ實費經理ト委任經理トアリ實費經理ハ一般の經理法ニシテ委任經理ハ例外的經理法ナリ

陸軍各部隊ノ經理ハ戰時ハ實費經理ノ本則トシ平時ニテリハ營内居住下士卒及隊馬ニ係ル給與ノ經理ハ委任經理ニ依リ其他ハ概テ實費經理ニ依ル

第二節 委任經理

陸軍ニ於ケル委任經理ハ金錢又ハ物品ヲ以テ定メタル給與ノ定額ヲ部隊ニ交付シ其經理ノ給與實施ノ責任者タル當該部隊長ニ委任スルヲ謂フ從テ委任ヲ受ケタル部隊ハ國庫ヨリ之等ノ定額ヲ受テ諸般ノ需用ノ充テスモノニシテ定額ニ不足ヲ生スルモ之ヲ補足ヲ受ケルヲ得ラルト共ニ給與ノ殘金、廢物賣却代等ハ返納スルコトナク委任經理積立金トシテ部隊ニ保管シ將來ニ於ケル委任經理ノ費途ニ使用スルコトヲ得セシム

第三節 實費經理

實費經理トハ委任經理ニ對スル邊ニシテ實際ノ費用ニヨリ經理ヲ行ヒ令邊豫算内ヨリ實費ヲ支辨シ其剩餘ハ國庫ニ歸屬ヒシムルト共ニ必要之ムヲ得ラル豫算ノ不足ハ増額ヲ受ケタルコトヲ得從テ廢物賣却代、如キハ必

ス之ヲ歳入ニ納付セサルハカラス
 實費經理ノ趣旨斯ク、如シト雖モ各部隊ハ令達豫算ノ範圍内ニ於テ諸般
 ノ需用ヲ辨セサルハカリラム例トシテハ各年度ノ總豫算ハ補充費途ノ外總
 對ニ増加スルヲ得ス中次部ハ緊急ノ需用ニ應スル爲メ若干ノ豫備ヲ存
 スルニ適キサルハテ從テ無狀ニ各部隊ノ増額要求ニ應スルヲ得ザルハシ
 官衙ニ於ケル經理ハ實費經理ニシテ實費經理ハ委任經理ニ比スレハ比較
 的簡ニシテ又必スシテ經濟上不利ナラス
 之ヲ要スルニ實費上委任經理ハ給與定額及定量ヲ以テ制限シ實費經理ハ
 豫算額ヲ以テ制限セルモノト謂フヲ得ハシ

第十章 物品會計

第一節 物品會計ノ概念

茲ニ物品トハ物品會計規則上ノ所謂物品ニシテ政府ニ屬スル器具器械備
 品消耗品動物共ノ他一切ノ動産ヲ謂フ
 物品會計ハ物品ニ関スル諸般ノ經理ヲ謂ヒ其大綱ハ物品會計規則ヲ以テ
 之ヲ定メ尚陸軍ニテハ陸軍大臣其細部ノ手續ヲ定ム陸軍物品會計規
 則即チ是レナリ
 要スルニ物品會計ニ關スル法制ハ金銭會計ニ關スルモノニ比シ簡單ニシ

テ從來物品ノ取扱動モスレハ金銭ノ出納收支ニ比シ粗略ニ流レ物品會計
 ノ輕視スルノ弊トシトセス然ルニ豫算運用ノ巧拙ハ寧ロ物的需要ヲ充足
 スハキ物件費ノ使用ニテアリテ所要ノ物品ヲ最モ有利ニ調達シ更ニ最モ有
 利ニ使用スルニテアリ就中物品ノ使用ヲ適切有利ナラシムルハ物品ノ利用
 價値ヲ増大シ保存命數ヲ延長シ其影響持ニ大ナルモノアリ從テ其局ニ當
 ル者ハ物品ノ使用取扱ヲ最モ慎重ナラシメ官物ヲ尊重愛護スルノ精神ヲ
 涵養スルコト肝要ナリ

第二節 會計年度

物品ノ會計年度ハ金銭ト同一ナルニ金銭會計ニ於テトク整理期間ヲ
 有ヒス其ノ出納ハ現ニ行ヒタル日ヲ以テ年度ヲ區分シ整理ヲ行フ

第三節 物品會計機關

一般物品會計上ノ機關中主トルモノ左ノ如シ

1. 物品出納命令官

物品ノ出納ハ一々命令ニヨラザルハカラス物品出納命令官ハ物品會
 計官吏ニ物品ノ出納ヲ命令スルモノニシテ黨部ニテハ部長タリ部長
 ハ之ヲ部下ノ官吏ニ委任スルコトヲ得ルモ物品會計官吏ト相兼テシ
 ムルヲ得ス

(註) 黨部ニ於テハ一部ノ出納命令ヲ科長及事務官ニ委任ス

2. 物品ノ出納官吏ニシテ當部ニテハ一般物品ハ主計、器材等ハ材料主管
又拂下地團ハ製図科主任者之ニ當リ其ノ責任ハ一般出納官吏ト異ナ
ル所ナリトシ供用物品ノ亡失毀損ニ就テハ合規ノ監督ヲ怠リタル時ハ
其ノ責ヲ免ルルヲ得ス

3. 物品監守者

使用者ト物品會計官吏トノ中間ニ立テテ物品ノ受領備付修理交換返
納等ヲ取扱ヒ且ツ其ノ取扱中ニ係ルモノ及ヒ供用物品ノ保管ニ任シ
保管中ノ物品ニ就テハ辨償ノ責ニ任ス

4. 物品使用者

物品ノ專用者等ヲ謂ヒ其ノ物品ニ就キ辨償ノ責ニ任ス

第四節 出納

物品ノ出納ハ物品出納命令官ノ命令ニ依ルヘキモノニシテ物品會計官吏
ハ物品出納簿ヲ備ヘ物品ノ出納ヲ登記シ現況ヲ明瞭トラシメ且ツ供用物
品ニイリテハ物品配與ノ狀況ヲ明カナラシムル為メ物品配與簿(表一)ヲ
備フヘキモノトス

- (イ) 購入 注文傳票ニヨリ受入レ出納命令ヲ受ケ物品出納簿ニ登記ス
- (ロ) 備付 物品監守者ハ需用傳票ヲ調製シテ物品會計官吏ニ請求シ
同官ハ傳票ヲ調査シ出納命令ノ受リ記帳ノ上現品ハ傳票

(ハ) 返納 一片ニ受領月日ヲ記入シ捺印ヒシメ監守者ニ交付ス
物品監守者ハ返納傳票ヲ調製シ現品ヲ添ヘ物品會計官
吏ニ返納ス

(ニ) 交換 備付及返納ノ兩手續ヲ一時ニ行フモノトス

(ホ) 修理 概テ購入備付ノ要領ニヨリ破損品ノ修理ヲ行フ

第五節 廢品處分

物品中使用ニ堪ヘサルモノ又ハ將來使用ノ目的ナキモノハ物品會計官吏
ハ現品ノ狀況ニ應シテ之カ處分ノ方法(之ヲ他ニ利用シ或ハ賣却シ)ヲ定メ部長
ヨリ所管經理部長ニ承認ヲ求メ之カ處分ヲ行ハスモノトス
但シ一部ノ廢品ニ就テハ經理部長ヨリ其ノ處分承認隨テ部長ニ委任ヒラ
レテ行フ以テ之等ノ廢品ニ就テハ經理部長ノ定ハル所ニ從ヒ部長リ處分
ヲ行ハシ得ルモノトス

第六節 保管轉換

保管轉換トハ物品會計官吏カ其ノ保管ニ係ル物品ノ他ノ物品會計官吏ニ
引渡スヲ謂ヒ中部隊ノ不用品ニシテ尚乙部隊ニ於テ利用シ得ラルル場合
等ニ行ハルルモノトス
物品ノ購買ニ當リテハ經費ハ嚴ニ科目ノ區分スト雖モ物品會計上ニテハ
テハ支出科目ノ異同ノ間ヲ要セス然レトモ保管轉換ノ制度ヲ應用シテ

故意ニ經費流用ノ結果ヲ生スルカ如キ弊ナカラシムルヲ要ス
保管轉換ヲ為リントスル時ハ所管長官(參謀總長)ノ許可ヲ受テ兩所管
ニ跨ルモノハ兩所管長官協議シ尚經理部長ノ同意ヲ求メ之ヲ行ハトス

保管轉換ハ無償ヲ以テ受授スルヲ原則トスルモ委任經理部隊間或ハ委任
經理部隊ト非委任經理部隊間ニアリテハ有償ヲ以テ受授シ且ツ後者ノ場
合ニアリテハ經理部長ノ評價ニヨルハキモノトス

第七節 出納證明

物品ノ出納ハ(一)直接會計検査院ニテ證明スルモノト(二)同院ヨリ委託セテ
レ經理部長ニテ検査スルモノトアルモ當部ニ於ケル物品ハ(三)ニ屬シ其ノ
出納證明ハ物品受付簿ヲ計算書ニ代用シ經理部長之ヲ検査判決ス

第十一章 物件調達

第一節 物件調達ノ概念

物件調達トハ軍ニ必要ナル物件ヲ調達スルヲ謂ヒ其ノ本旨ハ所要ノ目的
ニ適セル品質又ハ要件ヲ具備セル物件ヲ適當ノ時期及場所ニ於テ所要量
ヲ經濟的ニ調達スルニアリ
調達ノ方法ニハ左ノ如ク種アルモ以下皆ノ普通ノ調達法タル契約調達ニ

就テ述ハントス

第二節 契約調達

契約調達トハ政府カ民法商法等ノ原則ニ從ヒ個人ト平等ノ關係ニ於テ契
約ヲトシ調達スルモノトシテ政府カ之等ノ契約ノ行ノニ當リテハ尚會計
法規ニ依リ制限ヲ受ケ

契約調達ハ其目的ノ如何ヲ問ハス會計法規上(一)一般競争契約(二)指定競争
契約(三)隨意契約ノ三方法ヲ認メ一般競争契約ニヨルヲ其本則トセリ

第三節 契約擔任官

陸軍ニ於テ調達權ヲ有スル者ハ陸軍大臣ナルモ通常其實行ニ任ズ或閣
令任スルノ例トシ之等委任ヲ受リタル機關ノ契約擔任官ト稱ス
當部契約擔任官ハ部長トシ之ニ概例ニ屬スルモノハ概括認可ヲ受テ其計之
カ契約ヲトシ又出張先ニ在リテハ當該主任者ニ調達權ヲ委任セリ

第四節 検査受領

當部ニテ検査受領スルモノハ自ラ購買シタル物品ノ外經理部ニテ契約シ
直接當部ニ納付セシムル薪炭其他ノ合同調制品等アリ
契約者ノ物品ヲ提供シタルモノハ契約書ニ定メタル條款ニヨリ標本アル
モノハ標本ニ對照シ双方合シ検査ヲ實行ス
検査ハ嚴格ニ履行セサルハカラス納品ノ不良不足ハ國家ニ損害ヲ及ボス

ノミナラス軍需ノ目的ヲ達成スルヲ得ス
 納品ハ品質及ヒ數量ニ就キ検査ヲ行フハトモニシテ數量ハ全部ニ對シ
 度量衡ヲ用ヒ行フヲ本則トシ已ムヲ得サルトトハ一部分ノ抽出検査ヲ行
 フニ止マルコトアリ

検査受領シタル物品ハ供給者ニ受領ノ證ヲ與フルト共ニ傳票等ニヨリ帳
 簿ニ受入ルハキモトス

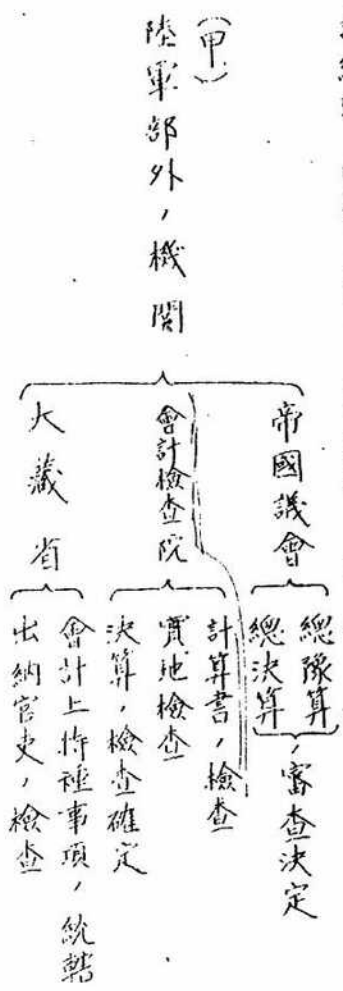
第五節 代金支拂

代金支拂ノ方法ハ後掛(精算掛)ヲ本則トスルハ既ニ述ヘタルガ如シ然
 レトモ契約完了前ニ工事又ハ製造ノ既済部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ
 部分掛ヲ爲シ得ルモノトス此場合ニハ部隊長ハ検査官ニ命シ事實ヲ調査
 シ其調査ヲ作シム但シ部分掛ノ金額ハ工事又ハ製造ニ就テハ既済部分
 ノ十分ノ九物品供給ニアリテハ既納部分ニ對スル代金ヲ限度トス

第十二章 會計監督

會計經理ノ監督ハ會計ノ秩序ヲ維持シ經理ノ改善進歩ヲ促ムヲ以テ主眼
 トス即チ不法不當不正及不經濟若ハ誤謬脱漏等ノ事實ナキト否トヲ調査
 シ以テ當事者ヲ警メ事前ノ豫防ト共ニ事後ノ矯正恢復ヲ圖リ再ヒ違背ナ
 カラシメ且ツ其實績ニ徴シテ經理方法ノ改善進歩ノ圖ルニアリ

會計經理ノ監督ニ任スル機關概テ左ノ如シ



第二章 金銭經理

第一節 給與

給與トハ兵馬ノ体カヲ保持シ若クハ特別ノ目的ヲ達スルカ爲メ規則ニ依リ個人又ハ部隊ニ金銭若ハ現品ヲ給スルヲ謂フ而シテ金銭ヲ給スレ

ヲ金銭給與ト稱シ現品ヲ給スルヲ現品給與ト稱ス
例ハハ俸給旅費ノ如キハ金銭給與ニシテ糧食被服ノ如キハ現品給與トス
當部ニ於テハ總テ個人ニ對スル金銭給與トス

第一節 金銭給與

金銭ヲ以テ個人ニ給與スルモノハ俸給旅費等トス俸給ハ受給者ノ地位身分ニ應スル生活ヲ營マシムルカ爲メ支給スルモノニシテ陸軍ニ於テ給與スル俸給ハ之ヲ軍人俸給軍屬俸給ノ二者ニ大別スルコトヲ得

第二節 軍人俸給

軍人俸給ヲ細別シテ准士官以上ノ俸給下士兵卒ノ給料及諸出陣ノ手当金ノ三種トス

一 准士官以上俸給

准士官以上俸給ハ現ニ在職中ノ者待命中ノ者休職中及外國留学ヲ許可セラレタル者並停職中ノ者ニ依リ其給額ヲ異ニス俸給ハ官等ニ依

リ等差ヲ付スルノ外尚士官及准士官ニ對シテハ同一官等内ニ於テ勤
勞年限ヲ顧慮シ或ハ生活ノ狀況ニ應スルカ爲メ更ニ給等ヲ設ク
豫備役後備役ノ准士官以上ニシテ召集中ノ者及部隊ノ職務ニ就キ
ル者ニハ在職又ハ現役ニ準シ俸給ヲ給ス但シ演習召集中ハ俸給ニ等
給アルモノハ最下給ニ依ル

二 下士官兵給料
下士官兵給料ハ現役中召集中並部隊ノ職務ニ就キタル下士官兵ニ給
スルモノトス但シ演習召集中俸給ニ等給アルモノハ最下給ニ依ル
下士官兵給料ハ總テ月額ヲ以テ給與額ヲ定メ更ニ官等若ハ階級ニ依
リ等差ヲ付ス
尙下士官ニ在リテハ同一官等内ニ於テ更ニ給等ヲ設ク

三 手当金
手当金ハ月額ヲ以テ之ヲ定メ陸軍所屬ノ諸生徒ニ對シ之ヲ給ス並部
修校所生徒手当ノ如シ
四 諸加俸
諸加俸トハ職務ノ性質又ハ土地ノ狀況若ハ其他特別ノ技能ヲ要スル
等ノ事由ニ依リ俸給以外ニ増給スルモノヲ總稱ス滿洲在勤加俸通譯
加俸等之ナリ

第三章 軍屬俸給

一 軍屬俸給ト稱スル陸軍文官俸給及雇員傭人ノ給料ヲ總稱ス

二 高等文官俸給ハ官職ニ依リ定メ高等官官等俸給令等規定セラレテ
リ高等文官俸給ハ官職ニ伴ヒ一定ナルモノト同一官職ニシテ官等
ニ依リ額ヲ異ニスルモノト同一官職同一官等内ニ於テ給額ニ數級
アルモノトアリ

以判在文官俸給ハ十一級ニ分テ月額ヲ以テ之ヲ定メ而シテ五級俸以
上ハ每級在職一年以上ニ至リ増給シ又最上級俸ヲ度テ五年ヲ起ハ
事務熟練優等ナル者ニハ特ニ二百圓返ヲ給スルコトヲ得其他月俸
七十五圓未満ノ者ニ限リテハ級俸ニ拘ラズ適宜ノ金額ヲ定メ支給
スルニ妨ケナシ但シ所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

八 待遇官吏俸給ハ陸軍法務官試補陸軍監獄看守陸軍警査等ニ給スル
モノトス
又俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス
文官懲戒令ニ依リ減俸ノ處分ヲ受クルトキハ一月以上一年以下ノ範
圍ニ於テ俸給額ノ三分ノ一以下ヲ減シ又在職中ハ俸給三分ノ一ヲ給

文官廢官、退官、退職、死亡ノトキハ、当月分ノ俸給全額ヲ給シ、休職、廢官、退官者ニシテ、事務引繼、成績整理ニ從事スル間ハ、從前ノ俸給ヲ給ス。尚、文官在官又ハ在職中死亡スルトキハ、死亡賜金ヲ其遺族ニ給ス。北海道、朝鮮、臺灣、滿洲、支那ニ在勤ノ陸軍文官及同待遇官吏ニハ、陸軍武官ト等シク在勤加俸ヲ給ス。

病氣ノ爲メ、執務セリルコト九十日ヲ超ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セリルコト三十日ヲ超ユル者ハ、俸給ノ半額ヲ減ス。但シ公務ノ爲メ、傷疾ヲ受ケ、若ハ疾病ニ罹リ、又ハ服忌ヲ受ケル者等ハ、此限リニテ、陸軍准士官以下ニシテ恩給ヲ受ケル者、文官判任官以上ニ在セラレタル場合ハ、俸給額ヨリ恩給額ヲ控除スルモノトス。

又、文官ハ恩給法ニ依リ俸給(前項)場合ハ、恩給額ヲ控除シタル額百分ノ二ヲ國庫ニ納金スルヲ要ス。之ヲ爲メ、俸給支給ノ際、之ヲ控除シテ支給スルモノトス。

第三章 陸軍備人給料

一、陸軍備人ハ官等ニ列セサルモ、軍ノ連繫ニ属スル軍属ニシテ、其給料ハ月給又ハ日給トス。イ、陸軍備人ノ給料ハ月額八十五圓ヲ最上限トス。但シ特別ノ技術ヲ要スル者ニハ、其以上ヲ給スルコトヲ得。

口、備人ノ給料ハ、陸軍備人給料支給規則規定ノ看護人、磨工、蹄鐵工、鞍工、庫手、守警、玄關番、驗潮儀、監守、小使、給仕、厨夫、牧手、耕手、馬丁、看馬夫、火夫、消防夫、警火夫、調教手、看護婦、雜仕、婦等ニハ、同備給表ノ額以内ヲ給シ、其他ノ備人ハ、雇員ニ準シ契約ヲ以テ給額ヲ定ム。

内地以外ニ勤勞スル雇員及規定備人ニハ、在勤加俸ヲ給ス。但シ土著ノモノハ、此限りニ非ス。

又、月給者ノ給料ハ、採用増給減給ノトキハ、發令ノ翌日ヨリ解雇解雇ノトキハ、發令ノ當日迄之ヲ給ス。死亡其他ノ場合ハ、左ノ如ク規定ス。死亡ノトキハ、其月ノ全額ヲ給ス。又、公傷以外ノ傷病其他ノ事故ニ依リ休務三十日以後及收禁留置中ハ、半額ヲ減シ、拘禁中ハ、之ヲ給セス。但シ無罪又ハ宥訴ニ歸スルトキハ、之ヲ追給ス。而シテ海外ニ在勤ノトキハ、傷病休暇中ト雖モ給料ヲ減スルコトナシ。

又、雇員及規定ノ備人ニシテ、豫備役ノ軍籍ニ在ル者百集セラレ、軍人俸給ヲ受ケル間ハ、雇員又ハ備人ノ給料ハ、其支給ヲ停止ス。但シ、演習百集ニ應ジタル場合ニ限リ、陸海軍ニ於ケル俸給額、理給料額ヨリ算出スルモノハ、其不足額ヲ補給スルコトヲ得。

又、月給者ノ給料ハ、毎月陸軍文官俸給支給日ニ、日給者ノ給料ハ、出發日次

37

ニ依リ毎月下旬適宜ニ之ヲ給ス而シテ日給者ニ在リテハ一紙及命令
上ノ休日簡便點呼奉會當日又ハ公症等ニテ不奉ノ日モ通常出務日數
ニ算入ス但シ休日ノ前後共ニ出務日數ニ算入セサル場合ハ此限リニ
アラス

五 備給表ニ掲ケル以外ノ傭人ニ付シテハ部隊ノ規定又ハ契約等ニ依リ
勞務ニ服セシノサルニ拘ラス給料ヲ支給スルハ誤リナリ

第四節 旅費

官吏公務ノ爲メ旅行スルトキハ旅費ヲ受ク旅費ハ實費給與ヲ全額トス
ルモ給與上整理上等ノ利害ヲ顧慮シ定額ヲ給スル場合多シ一級官
旅費ハ旅行地ノ本邦内ナルト外國ナルトニ依リ内國旅費ト外國旅費ト
ニ分テ尚關東州滿洲ノ如キ特種ノ地方ニアリテハ吏ニ之ヲ區別シ各之
ヲ給與ニ関スル規則ヲ設ケアリ而シテ陸軍大臣ハ是等規定ニ基キ更ニ
軍人軍屬其他陸軍ノ要務ヲ以テ旅行セシムル者ノ旅費給與ニ関スル規
定ヲ定ム陸軍旅費規則陸軍外國旅費規則陸軍南洋群島關東州南滿洲旅
費規程陸軍臨時滿洲旅費規程是ナリ

第一款 内國旅費

内國旅費ノ範圍ハ陸軍旅費規則ニ依ルハキ場合ヲ示スモノニシテ陸軍
旅費ハ旅行ノ種類ニ依リ其給與及支給ノ方法等ヲ異ニスルモノニシテ陸軍

旅費ニ互リ給與上必要ナル事項ヲ述コレハ左ノ如シ

一 旅行ノ経路

旅行ノ経路ハ順路ニ依ル其順路ハ陸軍所定ノ陸軍里程表ニ示シアル
モノハ之ニ依リ其之ヲキモノハ当該支出官ノ認ムルトコロニ依ル然
レトモ公務ノ都合上順路ニ依リ難キ場合ニ於テ所属長官ノ證明アル
トキ及公務旅行中川留雪支等已ムヲ得サル事故ノ爲迂回シタル場合
ニ於テ官公署ノ證明アルトキハ實際ノ経路ニ依ルコトヲ得ルモノト
ス

二 旅行日數

旅行日數ノ計算ハ旅行用務ニ要シタル實際ノ日數ニ依ルモノトシテ
ニ依リ日數ヲ算出スルモノトアリ
實際ノ日數ニ依ルモノハ全ク公務ノ爲メ其日數ヲ要シ又ハ公務旅行
中川留雪支船荷傷病已ムヲ得サル事故ノ爲メ滞在シタル場合ノ日數
ヲ加算シ官公署ノ證明ヲ要ス若シ公務旅行中ト雖私事ノ爲メ迂回シ
又ハ途中滞在シタルトキハ之ニ要シタル日數ハ除算スルモノトス
路程ニ依リ日數ヲ計算スルモノハ鐵道旅行ハ三百三十料水路旅行ハ
百海里陸路旅行ハ十二里ヲ以テ各一日トシ一日未滿ノ端數ハ之ヲ時
間ニ改算シ十二時間ヲ以テ一日トシテ計算ス若シ各種ノ路程相跨ル

トキハ其路程毎ニ生スル端數ノ換算ハ時位ニ止メ之ヲ通算シ十二時
間ヲ以テ一日トシ一時間以上十二時間未滿ノ端時間ハ之ヲ一日トス
而シテ其端數ヲ換算スルニハ鐵道二十七科半水路ハ八海里陸路ハ一
里ヲ以テ各一時間ノ行程トス

三、旅費定額ノ支給區分

各種旅費定額ノ支給ハ左ノ區分ニ依ル

一、鐵道賃

鐵道賃ハ官用ニアラサル汽車ニテ旅行スル者ニ一科(台灣ニアリテ
ハ一哩)以上科(運數ニ應シテ之ヲ給ス

二、船賃

船賃ハ官用ニアラサル船舶ニテ水路ヲ旅行スル者ニ一海里以上海
里數ニ應シテ之ヲ給ス

貨倉ノ支拂ヲ要スル航空機ニ依リ演習旅行等ヲ命シタル場合ニア
リテハ舟車馬賃ニ替ヘ搭乗賃ノ實費ヲ支給ス

三、車馬賃

車馬賃ハ官用ニアラサル車馬ニテ旅行スル者ニ一里以上里數ニ應
シ之ヲ給ス

四、宿泊料

宿泊料ハ旅行中ノ夜數ニ應シ之ヲ給ス但シ水路旅行中ハ之ヲ給セ
ス

五、食卓料

食卓料ハ官用ノ船舶ニテ旅行スル場合官ヨリ騎ヲ爲リサルトキ夜
數ニ應シテ之ヲ給ス

六、旅籠料

旅籠料ハ食數及夜數ニ應シ之ヲ給ス

七、日當

日當ハ旅行ノ日數ニ應シ之ヲ給ス
但シ旅行ノ行程陸路六里(官用自動車或ハ航空機ニテ旅行スル場合
ニハ夫々十二里又ハ二十四里未滿ナルトキハ公務ノ都合ニ依リ宿
泊ノ場合ヲ除ク外半額ヲ給ス而シテ其路程鐵道ナルトキハ十三科
水路ナルトキハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ未滿ヲ定ム

八、移轉料家族移轉料

移轉料家族移轉料ハ轉任轉職等ノ場合ニ給ス

九、諸手當

諸手當ハ旅次手當滞在手當赴任手當文書料演習手當及死七手當等
ニ分ツ

旅費等當ハ陸軍移轉又ハ儀狀ノトキ、滞在寺當ハ軍隊官衙學校ニ次
遺、トキ日數ニ應シ之ヲ給シ赴任寺當ハ轉任時職就職、為メ赴任
スルトキ又ハ軍隊官衙學校ト共ニ移轉スルトキ、支度料ハ、轉任及支
那ニ旅行スル時、演習寺當ハ演習又ハ野外作業、トキ其回数ニ應シ
死亡寺當ハ支那ニ在勤中任所往還中又ハ出張ノモノ、在勤地又ハ旅
行中死亡シタルモノニ給ス

旅費ノ定額ヲ異ニスル場合同日ニ生シタルトキハ其多額ニ就キ之
ヲ給シ、旅行中追加等ニ依リ定額ニ増減ヲ生シノルトキハ發令ノ翌
日(演習寺當ハ發令ノ週)ヨリ新定額ヲ給スルモノトス、但シ鐵道貨、船
貨ハ最近ノ停車場、寄港地ヲ以テ定額ヲ區分ス

四、旅費定額ノ變換
旅費定額ヲ増減或ハ停止スル場合左ノ如シ
ノ鐵道貨、船貨、車馬賃ハ用勞ノ性質又ハ地方状況ニ依リ定額内ニテ支
辨シ難キ場合ニ限リ所屬長官ハ旅行ノ全部若ハ一部ニ對シ其費額
ヲ給スルコトヲ得

又定額ハ陸軍大臣ニ於テ全部若ハ一部ノ支給ヲ止メ、又ハ之ヲ減少シ
若クハ定額ノ範圍内ニテ特ニ支給額ヲ定ムルコトアリ
又所屬長官ハ必要ヲ認メタルトキハ出張旅費中陸旅費、管内旅費等ノ

定額ヲ減少スルコトヲ得

又所屬長官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クルトキハ左ノ如ク旅費定額ヲ
變換スルコトヲ得

- (1)測量鐵道、土木工事等ノ為現場ヲ巡廻シ又ハ常時旅行ヲ要スル者
ニ對シ其業務ノ性質ニ依リ車馬賃ヲ支給セス
- (2)或ハ定額ノ範圍内ニ於テ特ニ其旅費額ヲ定メ月額若ハ日額ヲ以
テ旅費ヲ支給ス

五、旅費ノ給付區分

旅費ハ三里(官用自動車又ハ官用航空機ニテ旅行スル場合ニ在リ)ハ
夫々六里又ハ十二里以上ノ地ニ旅行スル場合ニ於テ支給スルヲ原則
トスルカ故ニ旅行ノ地區三里以内ナルトキ及出張地滞在中該地ヨリ
三里(官用自動車ニテ旅行スル場合ニ在リ)ヲハ大里未滿ノ地ニ旅行ス
ルトキハ之ヲ給セス、而シテ其滿未滿ヲ定ムルニハ鐵道ハ四里、水路ハ
二海里ヲ以テ陸路一里ニ改算スルモノトス

然レトモ右ニ對シテハ次ノ例外アリ
ノ三里以上ト雖モ旅費ヲ給セサル場合左ノ如シ
イ、同一衛戍地内ニ於テ陸軍部内ノ軍隊、官衙出張所、派出所、作業場共
學校間往復ノトキ

又同一衛成地内ニ於ケル赴任又ハ陣營官衙學校移轉ノトキ
 又旅費ヲ給セサ場合ト雖モ所屬長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ某種
 ノ定額ニ限リ之ヲ給シ得ル場合アリ左ノ如シ
 イ 鐵道又ハ水路旅行ヲ要スルモノノ鐵道又ハ船賃
 ロ 傷病疾癒ニ依リ歩行セシメ難キトキノ車馬賃
 ハ 公務ノ都合ニ依リ宿泊セシメタルトキノ日當及宿泊料又ハ旅籠
 料又演習手當但シ日當ハ宿泊シタル日ニ限ル
 ニ 轉任轉職ニ當リ衛成地ヲ異ニスル場合ニ於ケル移轉料
 ホ 交通不便其他ノ事由ニ依リ村ニ多額ノ車馬賃ヲ要スルトキ其費
 費但シ出張滞在在中ニ限ル

六、路程ノ計算法

路程ノ計算上必要ナルモノハ其基點ナリ
 又路程ノ基點ハ陸路ハ郵便線路圖ニ示ス各市町村内ノ郵便局(郵便局
 ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方官廳又ハ市町村長ノ證明スル里程元
 標又ハ之ニ準スルモノヲ以テ基點トシ鐵道ハ停車場水路ハ波止場
 トス但シ同一市町村内ニ於ケル基點及停車場又ハ波止場間ノ里程
 ハ陸路旅行ノ路程ニ算入ス
 又路程ハ陸路、鐵道、水路等ニ合計シ之ニ依リ車馬賃、鐵道賃、船賃ヲ算出

又

但シ鐵道賃、船賃ニシテ定價ニ依ルモノ、料程ノ長短其他ニ依リ旅費
 ノ定額ヲ異ニスルモノ又ハ所屬年度ヲ異ニシ若ハ旅行ノ中間ニ於
 テ宿泊料、日常ノ支給ヲ止ムル場合ハ各別ニ計算ス

3. 路程ノ合算上生シタル一里、一料(臺灣ニ在リテハ一哩一海里未滿ノ
 端數ハ之ヲ切捨ツ

七、年度所屬區分

旅行兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度ニ區分計算スト雖モ鐵道賃、船賃
 ハ最近ノ停車場又ハ寄港地ニ着シタル日ヲ以テ區分シ演習手當ハ後
 年度ノ所屬トス但シ前金拂ノ旅費ハ支出ノ日ヲ以テ年度所屬ヲ定ム
 然レトモ退給ノ場合ニアリテハ其事由ノ生シタル日ヲ以テ之ヲ區分
 ス

八、前金拂ヲナシ得ル旅費

左ノ旅費ハ前金渡ヲ為スコトヲ得但シ實費支辨ニ屬スルモノハ此ノ
 限リニアラス
 1. 赴任旅費
 2. 出張旅費中ノ修學旅費、入院退院轉院ニ係ル旅費及刑事旅費
 3. 演習手當

六 歸脚旅費

六 召集旅費

八 朝鮮、台灣、樺太、及支那旅行中前各埠ノ旅費及歸還旅費
九 赴任ノ者ニ給スル馬匹旅費

九 鉄道賃ノ計算法

鉄道賃ハ其取車總料數ヲ計算シ内地官線鉄道及内地私設鉄道對料表ニ依リ其料程ニ相當スル甲乙丙類ヲ求メ之ニ總料數ニ對スル等級相當ノ急行料金ヲ加算スルモノトス

各種旅費ノ支給法

旅費ハ左ノ十種ニ類別セラル

一 赴任旅費

二 出張旅費

三 軍隊旅費

四 歸脚旅費

五 召集旅費

六 朝鮮、台灣、樺太旅費

七 支那旅費

八 測量旅費

九 馬匹旅費

十 待遇官吏及囑託旅費

一 赴任旅費

赴任旅費ハ轉任轉職就職等ノ爲メ赴任スル軍人軍馬ニ之ヲ給スルモノニシテ左ノ四ニ分ツ但シ雇員傭人ニ在リテハ特ニ認可ヲ得タル者ニ限ル

(一) 赴任旅費

(二) 赴任手當

(三) 移轉料

(四) 家族移轉料

赴任旅費ハ舊任地在脚ノ者就職ノトキハ現任地新ニ任用ノ者就職ノトキハ任命地ヨリ新任地ニ至ル順路ニ應シ給シ旅行中轉任轉職等ニ依リ直ニ任地ニ赴キシムル者ハ該旅費ニ限リ該旅行地ヨリ新任地迄ノ額ヲ給ス又赴任途中公務ノ爲メ迂回又ハ滞在セシムル者ニハ實際ノ経路旅行日數ニ依リ當該公務ノ種類ニ應スル旅費ヲ給ス但シ移轉料家族移轉料ハ此限リニアラス

二 出張旅費

出張旅費ハ差遣巡回其ノ他ノ出張又ハ修學ノ爲メ旅行スル軍人軍馬

六、朝鮮、台灣、樺太旅費

朝鮮、台灣、樺太旅費ハ朝鮮、台灣、樺太ヲ旅行ノ者ニ給スルモノニシテ赴任、出張、軍隊、歸郷及召集ノ各旅費ハ所定ノ定額ヲ給ス。但シ朝鮮諸部隊附軍人軍属等ノ朝鮮内、台灣諸部隊附軍人軍属等ノ台灣内ノ旅行ニ係ル内地旅費ノ第一表第三表、第二表、第三表、第五表ニ相當スルモノハ當該地方ノ狀況ニ應ジ定額以内ニ於テ當該軍司令官陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ各員額ヲ定ム。

七、支那旅費

支那旅費ハ支那ニ駐在スル陸軍部隊ニ関スル用務ヲ以テ本邦支那間ヲ旅行シ若クハ支那内ヲ旅行スル者ニ給スルモノニシテ赴任、出張、軍隊、歸郷及召集ノ各旅費ハ所定ノ定額ヲ給ス。但シ當該軍司令官又ハ該連司令官ハ定額以内ニ於テ各員額ヲ定ムルコト朝鮮、樺太、台灣旅費ニ同シ。尚小陸軍旅費規則中支那旅費ニ限ル特種ノ給與左ノ如シ。

- 死七手當
- 私属荷物ノ運賃
- 査證手数料
- 從者旅費

八、測量旅費

測量旅費ハ陸地測量及修技所生徒測量修業ノ為メ出張スル者ニ給スルモノニシテ其詳細ハ第二款ニ依ル。

九、馬匹旅費

馬匹旅費ハ乘馬ヲ牽連シ旅行ノ者ニ給スルモノニシテ其運搬費ハ赴任ノ場合ヲ除ク外定額内旅費支辨トシ日當ハ滞在間及乘馬ニテ旅行セシハルトキ、ミ之ヲ給ス。

一〇、符遇官吏及囑託者旅費

符遇官吏及囑託者旅費ハ陸軍ノ用務ニ関シ旅行ヲ為サシムル官吏符遇者及囑託者ニ給スルモノトス。

第一、測量旅費

測量旅費ハ陸地測量及測量修業ノ為出張セシムル者ニ給スルモノトス。

一、測量旅費ノ種類

- イ、往復旅費
 - 往復旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス。其ノ定額ハ第二表、朝鮮、樺太、台灣内ノ旅行ニ在リテハ第八表、支那内ノ旅行ニ在リテハ第九表ニ依ル。
 - (1) 在職ノ地ヨリ測量班ノ地區ニ往復スルトキ

(2) 測量班ノ地區内ニ於ケル甲地區内ヨリ一日行程以上ノ乙地區内ニ轉スルトキ
 作業日當

作業日當ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス但シ第(3)種ノ場合ニ在リテハ夜敷ニ依ル

(1) 測量地到着ノ翌日ヨリ其ノ地引揚ノ前日迄

(2) 測量班地區内ニ於ケル甲地區内ヨリ一日行程未滿ノ乙地區内ニ轉スルトキ

(3) 在職ノ地ヨリ三里未滿ノ地ニ旅行ノ場合ニ在リテ公務ノ都合上宿泊セシムルトキ

在職ノ地ヨリ三里未滿ノ地ニ旅行ノトキ宿泊セシメサル場合ニ於テモ所屬長官必要ト認ムルトキハ定額ノ半額以内ノ作業日當ヲ給スルコトヲ得

八 滞在日當

滞日當ハ出張中傷疾疾疫其ノ他ノ事故ニ依リ作業ニ服セス滞スルトキ其ノ間作業日當ニ代ヘ之ヲ給ス

三 測夫日當

測夫日當ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス此シテ二種ノ場合ニ在リテハ

夜敷ニ依ル

一 陸地測量ノ為測夫ヲ旅行セシムルトキ出發ノ當日ヨリ歸着ノ當日迄

二 在職ノ地ヨリ三里未滿ノ地ニ旅行ノ場合ニ在リテ公務ノ都合上宿泊セシムルトキ

舟車馬ニテ旅行セシムル測夫ニハ前項日當ノ外舟車馬賃ノ費ヲ給ス

三 測量旅費ノ制限及増給

測量旅費ハ所屬長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ定額内ノ費費ヲ給シ作業日當ニ在リテハ定額内ニ於テ支給額ヲ定ムルコトヲ得但シ作業日當滞日當及測夫日當ニ在リテハ定額ヲ以テ支給シ難キトキハ所屬長官ノ認可ヲ受テ定額ノ五割以内ヲ増給スルコトヲ得(宅衣旅費)

昭和五年七月二十九日部令別表

區	分	甲 額		乙 額		丙 額	備 考
		作業日當	滞在日當	測量修業者	作業日當		
官 内 地	所 別	大八〇	四四〇	四四〇	三三〇	二二〇	要
		六八〇	四四〇	四四〇	三三〇	二二〇	
同相当地測量	所 別	七七〇	五八五				

又、休業扶助料

療養ノ為勞務ニ服スルコト能ハサルニヨリ賃金ヲ受ケサル者ニ
給ス

3、障害扶助料

傷疾又ハ疾病ノ治療シタル時ニ於テ仍身份ニ障害ヲ存スル者ニ給
ス

4、打切扶助料

一定ノ療養期間(雇員一年六月満入三年)ヲ経過スルモ治療セサル者
ニ給ス

5、遺族扶助料

死亡シタル者ノ遺族等ニ給ス

6、葬祭料

葬祭ヲ行フ遺族等ニ之ヲ給ス

重大ナル過失ニ起因スル場合ハ或種ノ扶助料ヲ支給セサルコトアリ

雇員傭人ノ扶助金ハ其支給ニ関シテハ當部長ヨリ所管長官(奉謀總長)
ニ申請シ其認可ヲ受ケタル使實施スルモトス

第六節 死亡賜金及埋葬料

現役准士官以上各兵各部見習士官及下士官兵死亡シタルトキハ死亡
賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

營司令部住下士以下死亡スルトキハ埋葬料ヲ給ス

駐留地ニ在リテハ總テノ軍人軍属及其以外ノ者ニ在リテモ必要アル
トキハ所定ノ標準額以内ニ於テ埋葬及遺骨轉送等ノ諸費ハ官費トス

第二章 分任官勤務

當部分任官ノ取扱ノ經費ハ一年度十數万圓ニ上リ分任官數モ百數十
名ニシテ當部經理ノ重要地位ヲ占メ從ツテ分任官勤務ノ適否ハ豫算ノ
運用事業ノ選發會計經理ノ成績向上等ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ分
任官ノ職ニ在スルモノハ法規ニ立脚シ經費ノ運用ヲ適切ニシ記簿計算
ヲ誤ラズ特ニ不正不當ノ行為ハ絶対ニ戒斷スヘキモノトス
一 職出納官吏ノ性質等ニ関シテハ第一章第六節第四節ニ述フル處ニシ
テ分任官モ亦其性質上出納官吏ト同一ノモノナルヲ以テ出納官吏ニ關
スル規定ハ總テ分任官ニ之ヲ適用ス

第一節 任命

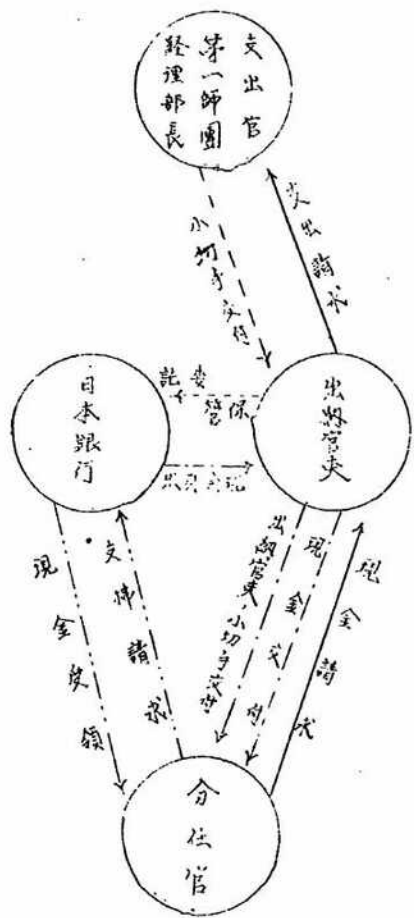
各所ニ於テ分任官ヲ要スルトキハ長官所屬ノ官吏ニ之ヲ命ス但シ尤
ニ掲ケル場合ニ限リ所屬ノ職託員雇員等ニ出納員ヲ命シ現金ノ保管出

級ヲ分掌セシムルコトヲ得

- 一、行軍演習等軍隊旅行ニ際シ官吏ノ附屬ナキ場合ニ於テ途中経費ノ支拂ヲ要スルトキ
- 二、官吏附屬ナキ分遣所派出所又ハ出張所等ニ於テ経費ノ支拂ヲ要スルトキ

他所屬ノ官吏ニ分任官(出納員)ヲ命ズルトキハ両長官ノ協議ヲ要ス

資金ノ請求ノ系統ヲ略示スレハ左ノ如シ



即チ分任官ヲ任命セラレシムルトキハ主任出張官吏ニ於テ資金ヲ準備スヘキ相當期間ヲ置キ所屬長官ノ認印ヲ受ケタル受領証ヲ提出シ出張官吏ヨリ現金ヲ受領スルカ又ハ小切手ノ交付ヲ受ケ日本銀行ニ至リ現金ヲ受領スルモノトス

出張途中現金ヲ要スルトキハ所定ノ送金要求ヲナシ日本銀行又ハ郵便局ヨリ受領スルモノトス

第三節 保管

分任官主任官ヨリ現金ヲ受領シタルトキハ之ヲ確實ナル格納箱ニ保管スルカ又ハ出納官吏ノ金櫃ニ保管ヲ委託シ以テ出張前ニ於ケル現金ノ亡失ニ関シ注意スルヲ要ス

- 出張先ニ於ケル現金ノ保管法左ノ如シ
- 一、預託

預託トハ其地ノ日本銀行(支店)又ハ代理店ニ現金ノ保管ヲ委託スルヲ云ヒ預託ヲナスニハ預託金拂込書ヲ作リ之ニ現金又ハ小切手若ハ支拂通知書ヲ添ヘ日本銀行ニ差出シ預託金領収証書ヲ受領シ又小切手帳ノ交付ヲ受ケ而シテ預託金ヲ引出サントスルトキハ自己ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ又債主ニ対シテ支拂ヲナス為現金ノ交付ニ代テ該預託金ニ対スル小切手ヲ振出シ支拂ヲ完結ス

假シ受取人カ特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ハ此限ニテラス
ニ 隨意保管
隨意保管トハ分任官ノ手許ニ現金ヲ保管シ置クヲ云フ其場合元ノ
如シ

- 1. 分任官ノ所在地ニ日本銀行ナキトキ
 - 2. 行軍演習作業等ニ際シ現金ノ携帶ヲ要スルトキ
 - 3. 不時ノ支拂等ニ應スル爲保管ノ必要アルトキ
- 分任官ハ自己ノ責任ヲ以テ郵便局又ハ確實ナル銀行若クハ資産信
用アル私人ニ現金ノ保管ヲ託スルコトヲ得之ニヨリ利子ヲ生シタ
ルトキハ歲入トナルヘキモノトス

第四節 支 拂

茲ニ支拂ト称スルハ出納官吏ヨリ政府ノ債主等ニ現金ノ拂渡ヲナシ
或ハ小切手ヲ振出スヲ云フ
分任官ハ現金ノ保管出納ニ關シテハ重大ナル責任ヲ負スルヲ以テ其
支拂ニ就テハ最モ周到ナル注意ヲ拂ヒ過誤ナキヲ期セサルヘカラス
金錢ノ支拂ハ可成一定ノ期日ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルモ購入物
件ノ代金等ニシテ既ニ支拂ヲ爲シ得ヘキ時期ニ達シアルモノハ常ニ遅
滞ナク支拂ヲ要ス之整理ヲ速ニシ物價ノ低廉ヲ促スヲ以テナリ

分任官ニ於テ支拂ヲ要スルトキハ其事由及計算ノ基クトコロヲ明記
スル証憑書ニヨルヘシ即チ証憑書ハ支拂ノ用ニ供シ國家債務ノ完了ヲ
明確ニシ國家ノ威信上紛議發生ノ余地ナカラシムルノ外富務者會計経
理ノ適確厳正ナルヲ証明スヘキモノトシテハ之ヲ取扱ハ厳正ナルヲ要ス
而シテ當務者ハ完全ナル証憑カヲ具備スル証書ノ提供ヲナスハ勿論ニ
シテ証書ニ記入スヘキ備考ハ支拂決定上並後日ノ検査上極メテ重要ナ
ル關係ヲ有ス故ニ最モ簡明ニシテ其要ヲ速ニサレ親切適確ニ記載ス
ルヲ必要トシ異例ニ屬シ且紛議發生シ易キ事項ニ付テハ特ニ留意スル
ヲ要ス

第五節 決算証明

資金前納官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲毎月前渡資金出納
計算書ヲ調製シ之ニ其証憑 前渡資金受拂計算書ヲ添ヘ部長ヲ經テ翌
月十日迄ニ支出官シル第一師團經理部長ニ送付ス但シ出張等ノ場合ニ
於テ支拂ヒタル經費ニ就テハ取經ノ提出スルコトヲ得
証憑書類ハ裁出科目表ノ區分ニ從ヒ各目ニ區分編纂シ其表紙ニ金額
枚數支拂ノ年月科目廳名分任官ノ資格官氏名ヲ記載ス
分任官ノ取扱ニ係ル支拂ノ証憑書ハ主任出納官吏ノモノト區分編纂
スヘキモノトス

計算書提出後過誤辨不足拂アルコトヲ發見シタルトキハ其自覺報告表ヲ調製シ支出官ヲ経テ之ヲ會計検査院ニ報告ス

第六節 責任

出納官吏ハ其出納保管ニ係ル現金ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クルモノトス

出納官吏ハ其責任ニ屬スル現金ノ出納保管ニ付自ラ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ其代理官分任官又ハ所屬出納員ノ行為ニ付テハ此限ニテラ入代理官分任官及出納員ハ其行為ニ付出納官吏ト同一ノ責任ヲ負フ

出納官吏(代理官分任官兼出納員共)其保管ニ係ル現金ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計検査院ニ証明シ責任解除ノ判決ヲ受ケルニテラサレハ其亡失毀損ニ付賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

前記一切ノ責任トハ一般官吏ノ責任ノ外賠償責任ヲ含ミ出納官吏ノ職責上全額ノ出納保管ニ関シ負担セシメラレタル責任ナリ故ニ出納官吏ヲ命令行為ニ付ナシタル過誤辨等ニ就テハ公法上ノ責任ヲ生スルコトアルニ賠償責任ヲ伴ハス

元来一般官吏ニ対スル義務違背ノ制裁ハ懲戒ニ止マルニ拘ラズ出納

官吏ニ限りズ、如キ賠償ノ責ヲモ負担セシムルハ直接ニ金錢ノ出納ニ任シ職務上ノ怠慢過失等ニヨリ直ニ國家ニ損害ヲ生シ易キヲ以テ出納官吏ヲシテ利害ノ觀念ヨリ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラシメサル如クシ以テ損害ヲ未發ニ防カントスルニ外ナラス

出納官吏ノ賠償責任ハ事故發生ト同時ニ法律上當然負担シ居ルモノニシテ會計検査院ノ判決ニヨリ始メテ發生スルモノニアラス唯保管ニ必要且適當ナル注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計検査院ニ証明シ責任解除ノ判決ヲ受ケタルトキハ其責任ヲ免レ得ルノニ效ニ琴証ノ責ハ常ニ出納官吏ニ在リ若シ充分ナル証明ヲナシ得ザルトキハ負担ノ責ヲ免レ得サルモノトス

出納官吏ノ賠償責任ノ免否ハ會計検査院ノ判決ニヨリ確定スルモノ所屬大臣ハ會計検査院ノ判決前ト雖モ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ出納官吏ニ賠償ヲ命スルコトヲ得然レトモ之ヲ行政上ノ處分ニシテ更ニ検査院ノ判決ヲ承ムルコトヲ得ルモノトス此場合ト雖モ所屬大臣ノ命シタル損失金ノ賠償ハ増徴スルコトナシ若シ會計検査院ニ於テ賠償ノ責ナシト判決シタルトキハ既納賠償金ハ之ヲ還付スルモノトス

第二章 物品經理

第一節 物品ノ種類

陸軍所屬ノ物品ハ之ヲ經理法ノ方面ヨリ觀察スレハ委任經理物品ト
 非委任經理物品トニ區別スルコトヲ得ヘシ
 委任經理物品トハ軍隊又ハ之ニ準スヘキ學校病院等ニ於テ委任經理體
 ニ概算受ヒル種目又ハ委任經理金ヲ以テ調達セル被服糧秣陳管具消耗
 品等ヲ謂ヒ非委任經理物品トハ各部隊ニ於ケル普通物品及兵備品中委
 任經理ニ屬セサルモノヲ謂フ
 常部ニ於ケル物品ハ總中備品消耗品圖書作業用器具機械及材料並ニ
 拂下地圖ニ大別スルコトヲ得

第二章 幕 廠中備品

軍隊ニ使用スル陳管具中其重要ナルモノハ國例ヲ以テ其制式ヲ規定
 シ以テ之ヲ統一シ員數並品種ノ增加ハ勿論制式ノ變更等モ所屬長官ノ
 認可又ハ隊長ノ裁量ヲ以テ備附クヘキモノナルモ官衙學校等ニ於テ使
 用スル廠中備品ハ其性質上軍隊ト異ナリ一定ノ形式員數ヲ以テ律スル
 可能ハサルモノ多キヲ以テ定數ヲ定メ又單ニ重要ナル物品ニ限り其品

質等ノ標準ヲ示ス官衙學校經理規程列表(附表等ニ参照ニ示スモノ之ナリ)

當部廳中備品ノ保續ハ廢費ヲ以テ支辨スヘキモノトス

當部廳中備品ハ甲部物品會計官吏之ヲ保管シ必要ニ應シ各科所物品
監守者ニ交付シ監守者ヨリ更ニ使用者ニ交付ス

物品會計官吏ハ出納簿及配與簿ヲ備附ケ出納簿ハ受入出納簿ハ區
分シ残高ハ更ニ供用假押在庫ニ分テ受辨、都度記帳スト雖消耗押ニ屬
スルモノニシテ一箇月以内ノ所要量ヲ買入レ直ニ需用者ニ交付スル
モノニアリテハ其記帳ヲ省略スルコトヲ得

之レ受辨共其証憑書ヲ注支傳票及需用傳票ヲ以テ其儘證明スル一種
ノ便宜ニ基クモノニシテ若シ残品ヲ生スル場合ニ在リテハ全部ニ付登
記スルモノトス、演習旅行先又ハ官吏ノ出張先等ニ於テ購買迄ニ費消ス
ルモノ亦同シ

配與簿ハ各品種毎ニ供用品ノ配與狀況ヲ明ニスルモノニシテ物品監守
者ノ保管物品ニ移動アル毎ニ記帳ス

物品監守者ハ備附簿ヲ備ヘ出納ノ都度之ニ記入シ尚其備附簿所ヲ明ニ
入但シ物品僅少ナル箇所ニ在リテハ備附表ヲ以テ之ニ換フルコトヲ得

第三章 消耗品

官衙學校等ニ要スル事務用消耗品及防寒用薪炭費ハ令達豫算内ヲ以
テ實費支辨トシ當部ニ在リテハ廢費ヲ以テ支辨スヘキモノトス

消耗品ノ出納整理ニ就テハ一箇月以内ノ所要量ヲ買入レ直ニ需用者ニ
交付スルモノニ在リテハ記帳ヲ省略シ得ルモ然ラサルモノハ物品出納
簿ニ登記スルモノトス

第四章 圖書

當部ニ於ケル圖書ハ之ヲ事務用圖書作業用圖書ニ區分スルコトヲ得
ハシ事務用圖書ハ廢費ヲ以テ支辨シ作業用圖書ハ廢費測量費拂下地圖書
製造費ヲ以テ支辨備附クルモノトス

圖書出納ノ登記ハ各書籍毎ニ區分スルコトナリ同品種ノモノハ概括シ
テ部門ヲ分シテ記帳シ別ニ圖書原簿ニ登記整理スヘキモノトス但シ機
密書類ニ在リテハ其機密ノ漏洩ヲ防ク爲特ニ陸軍機密書類取扱規則
ノ定ムル所ニ依リ取扱フモノトス

第五章 作業用器具機材及材料

作業用器具機械ハ乙部物品會計官吏又材料ハ甲部物品會計官吏ニ於テ取扱フ

之等物品、備附受領修理交換ヲ要スルトキハ監守者ハ傳票ヲ作り物品會計官吏ニ請求シ同官吏ハ之ヲ調査シ出納命令ヲ受テ現品ヲ物品監守者ニ交付ス不用物品返納ヲ要スルトキ亦又ニ準ス

使用者、所管物品ハ物品監守者ニ請求シ同一ノ手續ニ依リ監守者ヨリ使用者ニ交付ス

物品ヲ交付スルニハ實際ノ需要ヲ顧慮シ一時ニ多数ノ物品或ハ不急用品ヲ交付スルコトナキヲ要ス斯、如キコトヲ敢テスルトキハ其取扱自ラ粗忽ニ流レ濫用、弊ヲ生スルニ至ルハキヲ以テナリ

物品會計官吏ハ物品出納簿ヲ備ヘ物品ノ種類又ハ用途ニ依リ適宜類別シ更ニ各品目毎ニ口座ヲ設テ其出納ノ事實ヲ登記スルモノトス

物品出納簿ハ消耗、賣却、亡失、毀損、生産ノ為ノ消費其他物品會計官吏ノ保管ヲ離ルルヲ出トシ買入生産其他保管ニ屬スルヲ納トシ傳票領収書決定書等ニ依リ之ヲ記録スルモノトス

物品出納簿ニハ物品ノ数量ノミナラス其價格ヲモ併記スルヲ本則トス然レトモ作業會計物品工事用物品陸軍被服廠陸軍糧秣廠及陸地測量部作業場物品軍馬補充部飼養品及農業物品各作業場預リ材料ヲ除ク外ハ

實際ノ效用甚ク少キヲ以テ價格ノ記入ヲ省略スルモノトス

第六章 検査及証明

物品ノ検査ハ會計検査院ニ於テスルモノト陸軍大臣ニ於テスルモノトナリ後者ハ陸軍大臣検査ノ官吏ヲ命シテ行ハシメ營部ノ物品ハ所管區分ニヨリ第一師團經理部長毎年一回定期經理検査ニ於テ精細ニ其検査ヲ行フ

証明ハ會計検査院ニ直接証明スルモノト委託検査ニ係ルモノトノ二種アルモ前者ハ物品會計官吏ニ於テ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル毎年度間又ハ就職期間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ調査シ証憑書ヲ添ヘ年度経過後又ハ交代後ニヶ月以内ニ當該所屬長官ヲ經テ調査官(經理部長)ニ差出シ同官ハ之ヲ調査シ受領、日ヨリ一ヶ月以内ニ會計検査院ニ送付スルモノトス然レトモ陸軍ニ於ケル物品ハ糧秣被服其他各種事業ヲ行フ官廳ノ物品材料等ヲ除キ概テ委託検査ニ屬シ營部物品モ亦總テ其範圍内ニ在ルヲ以テ物品出納計算ノ検査及責任解除ノ件ハ検査院ヨリ陸軍省ハ陸軍省ヨリ更ニ所管區分ニ從ヒ經理部長等ニ委託セラ

ル
當部物品ノ計算証明ハ第一師團經理部長ニ對シ行フモノニシテ計算書

二代フルニ物品出納簿ヲ以テシ帳簿ノ末尾ニ出納計算ノ確實ヲ証明シ
 物品會計官吏署名捺印ス然ルトキハ經理部長ハ毎年定期經理検査ニ之
 ヲ検査シ異状ナキトキハ物品會計官吏ニ對シ責任解除ヲナスモノトス
 斯、如ク委任検査ニヨルハ畢竟手數ヲ省略シ事務ノ簡便ヲ期スルノ趣
 皆ニ外ナラス
 物品會計官吏交替或ハ代理官ヲ命セラレタルトキハ物品出納簿ニ前任
 後任者又ハ代理官連署証明スルモノトス此場合ニハ各出納官吏ノ管理
 期ヲ明記シ且証憑書類ヲ各管理期毎ニ整理スルモノトス

第四編 戰時經理

第一章 給

戰時給與トハ戰時若クハ事變ニ際スル諸給與ヲ云ヒ大體ニ於テ平時給
 與ヲ基礎トシセテ状況ニ適應セシメタルモノナリ即チ戰時ニ於テハ給
 與ノ確實ヲ期スル必要上平時給與ニ屬スルモノモ現品給與トシ或
 ハ自解セシムルモノモ官給スル等其方式ヲ改メ又給與ノ簡易迅速ニ因
 ル爲各種ノ變例ヲ認ムル等適切ナル給與ヲナスヲ本旨トス但シ内地ニ
 在リテハ平時給與ニ準スル場合少クラス
 又滿洲事變ニ際シテハ戰時給與ヲ適用シ後漸次平時ニ歸シタルモ然ニ
 純然タル平時給與ニ轉換スルヲ得サリシヲ以テ現在ハ在滿陸軍部隊駐
 時給與令ヲ以テ律シタル状態ナリ

第一節 俸給

戰時増額ノ支給區分左ノ如シ
 甲種 出戰又ハ戰備ノ状態ニ在ル准士官以上、軍屬ハ本俸ノ二割、下士
 以下ハ二割五分ヲ給シ尚事務繁劇ナル官衙ニ服務スルモノニモ
 支給ス
 乙種 戦地ニ在ル准士官以上及軍屬ハ本俸ノ四割、下士以下ハ五割ヲ

臨時給與令ニヨル増給ノ支給區分カ、如シ
 將校高等文官 四割 准士官判任文官雇傭人五割一六割但シ在勤地ニ
 ヨリ一割ヲ増加シ又三割以内ノ特別手當ヲ支給ス

第二章 旅費

旅費ハ實費拂ヲ原則トスルモ内地旅行ニ在リテハ單独旅行者ニハ定額ヲ給シ隊伍旅行者ハ實費支辨ニヨルヲ原則トス而シテ戰時旅費ノ支給法ハ總テ陸軍旅費規則ノ規定ニ依ルモノトス
 現在滿洲ニテハ陸軍旅費規則ニ據リ難キ情況ニ在ルヲ以テ臨時滿洲旅費規程ヲ設ケ當分ノ内本規程ニ依リ旅費ヲ支給セラル

第三章 被服

營外下士官以下及傭人ノ被服ハ之ヲ貸與ス
 准士官以上及軍屬ニハ持種被服ヲ貸與ス
 軍屬タル文官ニシテ從軍ノ為一定ノ服裝ヲ為サシメタル者ニハ服裝手當トシテ高等官一ニ〇四判任官一〇四ヲ給ス但シ一戰役又ハ一專使中一回ニ限ル

第四章 糧秣

糧秣ハ總テ現品ヲ官給シ實費經理トス但シ時宜ニ依リ各部隊ニ時價相當ノ代金額ヲ定メ之ヲ標準トシ各部隊ヲシテ調辦セシムルコトヨリ定量ハ戰時給與規則細則第一表ヲ基準トス但シ代用品ヲ支給スルヲ妨ケス又臨時飲食物ヲ加給スルコトヲ得

第二章 經理計算

戰時費ハ戰時固有ノ性質ヨリ精細ナル科目ニ分テ確實ニ算定スルコト恐ト不可能ナルカ故ニ其豫算ハ粗大ナリト雖モ之カ支出ノ整理ニ就テハ詳細ナル科目ニ依ル
 戰時費ノ會計ハ事件ノ開始ヨリ其終局迄ヲ一會計年度トシ特別ニ整理スルヲ從來ノ慣例トス

第一節 支出及支拂機關

臨時費ノ支出官ハ陸軍省經理局主計課長ニシテ又支拂機關ノ一例ヲ圖示スレハ左ノ如シ

- 主任資金前渡官夫 (陸軍省經理局課長)
- 主任資金前渡官夫 (關東軍經理部員)

分任官 (測量隊主計) (測量隊出張者)

分任官 第二節 現金、保管出納

出納官吏ハ現金及之ニ代ルヘキ証券額ノ保管及出納ニ在シ之等ハ金
櫃ニ格納シテ保管シ又ハ所屬長ノ承認ヲ受テ其保管スル現金ヲ所在地
日本銀行支店又ハ代理店ニ豫託スルコトヲ得但シ金櫃ノ管守方法ハ部
隊長之ヲ定ム

出納官吏支拂ヲナサントスルトキハ其費用ハ正當ナルヲ調査シ金額
ヲ算定シ証明上必要ノ書類ヲ完備セシメ所屬長ノ捺印ヲ受テタル後之
ヲ實行ス

第三節 決算証明

分任官ノ決算証明ハ計算証明規程ニ準シ臨時費支拂計算書ヲ以テシ
要スレハ自覺報告表ヲ添付シ前渡ノ系統ニ從ヒ順次ニ支出官ニ提出ス
決算証明ノ期限左ノ如シ

- 一、一時ノ分任官 支拂ヲ終リタルトキ
- 二、分任官ニシテ一時ノ支拂ニ止マラサルモノ翌月十日迄
- 三、分任資金前渡官吏翌月十五日迄
- 但シ分任官ノ支拂ヲ併算スルヲ要ス

分任官ノ所屬長官ハ臨時費支拂計算書ト現金出納簿トヲ对照調査シ其
現金現存額ヲ確認シタル後受拂計算書ニ檢査済ノ旨ヲ記シ記名調印ス
ルヲ要ス

附表第一 (1)

陸軍省所管

歳入經常部 (金額、九年度)

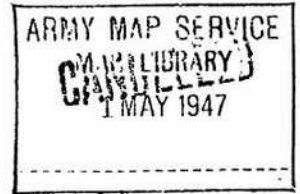
款	項	目	節	解	疏
雑収入	并償及遺約金	并償金 遺約金		官金七失物品七失毀損・白濁金等 保證金没収等	
	恩給法納金	文官納金 武官納金			
	利子収入	利子収入		前年度貸付一時保管に係る利子等	
	歳入臨時部				
官有物持下代	物品持下代	物品持下代		他因其他物品持下代	

歳出經常部 (金額、十年度)

款	項	目	節	解	疏
軍事費	俸給				

考 備

- 一、本表ハ單ニ其ノ標準ヲ示スニ過キサルヲ以テ備附ニ際シテハ實素、緊軍ナルト執務上ノ能率増進ニ適スルヲ本旨トシ建物の柱室ノ構造ニ相應スル如ク選定スルモノトス
- 二、同一品種ト雖其ノ品質程度ハ階級及職務ニ應シ適宜取捨スルモノトス
- 三、貴賓室用トシテ特ニ必要ナル場合ニ在リテハ本表ノ標準ニ依ラズ相當ノモノヲ備附クルモノトス
- 四、本表以外ノ品種ニ在リテモ亦右ニ準ス



昭和十一年二月二十日
 部内教育ノ爲筆記代用トシテ謄寫ス

主 計 部

